

# 伊豆の国市新型インフルエンザ等対策行動計画

平成26年10月

伊豆の国市

## 目 次

はじめに .....	1
第1章 総論 .....	2
第1節 市の責務、計画の位置づけ、構成等 .....	2
第1 市の責務及び計画の位置づけ .....	2
1 市の責務 .....	2
2 市行動計画の位置づけ .....	2
3 市行動計画に定める事項 .....	3
第2 市行動計画の構成 .....	3
第3 市行動計画の対象とする感染症 .....	4
第2節 新型インフルエンザ等対策に関する基本方針 .....	5
第1 新型インフルエンザ等対策の目的及び基本的な戦略 .....	5
第2 新型インフルエンザ等対策の基本的考え方 .....	6
第3 新型インフルエンザ等対策実施上の留意点 .....	8
第4 流行規模及び被害想定等 .....	9
1 新型インフルエンザ等発生時の被害想定 .....	9
2 新型インフルエンザ等発生時の社会への影響 .....	10
第5 対策推進のための役割分担 .....	11
1 市 .....	11
2 市民 .....	11
第6 市行動計画の主要6項目 .....	12
1 実施体制 .....	12
2 サーベイランス・情報収集 .....	13
3 情報提供・共有 .....	14
4 予防・まん延防止 .....	15
5 医療等 .....	17
6 市民生活・地域経済の安定の確保 .....	19
第7 発生段階 .....	19
第2章 各段階における対策 .....	23
第1節 未発生期 .....	23
第1 想定状況等 .....	23
第2 実施体制 .....	23

第3	サーベイランス・情報収集	23
第4	情報提供・共有	24
第5	予防・まん延防止	24
第6	医療等	26
第7	市民生活・地域経済の安定確保	27
第2節	海外発生期	28
第1	想定状況等	28
第2	実施体制	28
第3	サーベイランス・情報収集	28
第4	情報提供・共有	29
第5	予防・まん延防止	30
第6	医療等	30
第7	市民生活・地域経済の安定確保	31
第3節	国内発生期	32
第1	想定状況等	32
第2	実施体制	32
第3	サーベイランス・情報収集	33
第4	情報提供・共有	33
第5	予防・まん延防止	34
第6	医療等	36
第7	市民生活・地域経済の安定確保	37
1	市が行うこと	37
2	市民が行うこと	38
第4節	国内感染期	40
第1	想定状況等	40
第2	実施体制	41
第3	サーベイランス・情報収集	41
第4	情報提供・共有	41
第5	予防・まん延防止	42
第6	医療等	42
第7	市民生活・地域経済の安定確保	44
1	市が行うこと	44
2	市民が行うこと	44

第5節	小康期	47
第1	想定状況等	47
第2	実施体制	47
第3	サーベイランス・情報収集	47
第4	情報提供・共有	48
第5	予防・まん延防止	48
第6	医療等	48
第7	市民生活・地域経済の安定確保	49
1	市が行うこと	49
2	市民が行うこと	49

## はじめに

新型インフルエンザは、毎年流行を繰り返してきたインフルエンザウイルスとウイルスの抗原性が大きく異なる新型のウイルスが出現することにより、およそ 10 年から 40 年の周期で発生している。ほとんどの人が新型のウイルスに対する免疫を獲得していないため、世界的な大流行（パンデミック）となり、大きな健康被害とこれに伴う社会的影響をもたらすことが懸念されている。

また、未知の感染症である新感染症の中でその感染力の強さから新型インフルエンザと同様に社会的影響が大きいものが発生する可能性がある。

新型インフルエンザ等が発生した場合に、国民の生命及び健康を保護し、国民生活および経済に及ぼす影響が最小となることを目的に、平成 24 年 5 月に新型インフルエンザ等対策特別措置法（平成 24 年法律第 31 号。以下「特措法」という。）が制定され、平成 25 年 4 月に施行された。特措法第 6 条に基づき、平成 25 年 6 月に「新型インフルエンザ等対策政府行動計画」（以下、「政府行動計画」という。）が制定され、「新型インフルエンザ等対策ガイドライン」が策定された。また、平成 25 年 9 月に特措法第 7 条に基づき「静岡県新型インフルエンザ等対策行動計画」（以下、「県行動計画」という。）が策定された。

伊豆の国市では、全国に先駆け平成 21 年 10 月に新型インフルエンザ対策行動計画を策定したが、特措法に基づく政府行動計画・県行動計画策定を受け、伊豆の国市でも改めて、新型インフルエンザ等の脅威から市民の生命・身体を保護するため、市内において新型インフルエンザ患者が発生及び流行した場合に備え、国や静岡県と連携のもと本市の実施すべき事項を明らかにする必要がある。そのため、特措法第 8 条に基づき、国や県の行動計画を踏まえつつ「伊豆の国市新型インフルエンザ等対策行動計画」（以下「市行動計画」という。）を策定するものである。

なお、国や県行動計画に対応した行動計画を策定するに当たり、引き続き検討を進めるとともに、国や県の新型インフルエンザ対策の見直しや新たな科学的知見の蓄積等を踏まえ、必要に応じて改定するものとする。

## 第1章 総論

### 第1節 市の責務、計画の位置づけ、構成等

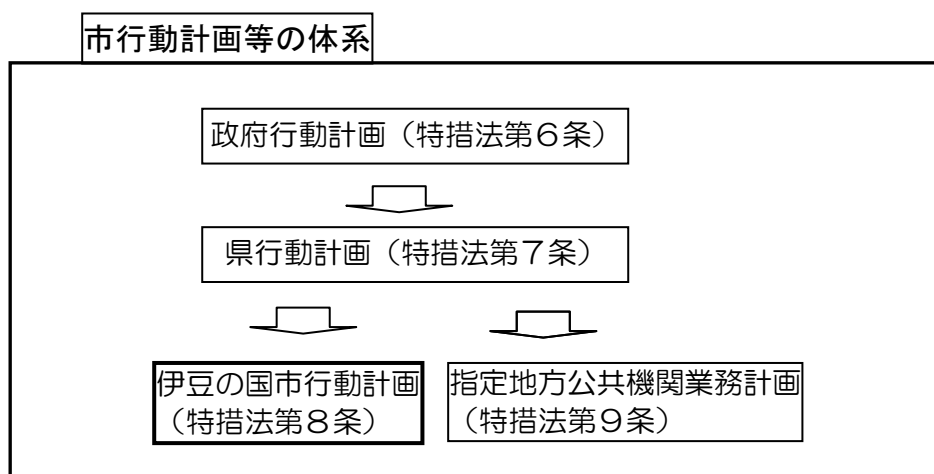
#### 第1 市の責務及び計画の位置づけ

##### 1 市（市長及びその他の執行機関をいう。以下同じ。）の責務

責務の内容	国、県、他の市町及び指定（地方）公共機関と相互に連携協力し、自らその区域に係る新型インフルエンザ等対策を的確かつ迅速に実施し、市内において関係機関が実施する新型インフルエンザ等対策を総合的に推進する。
根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特措法その他の法令</li> <li>・ 政府行動計画、県行動計画</li> <li>・ 新型インフルエンザ等への基本的な対処の方針（以下「基本的対処方針<sup>1</sup>」という。）</li> <li>・ 新型インフルエンザ等対策ガイドライン</li> </ul>

##### 2 市行動計画の位置づけ

市は、その責務に鑑み、特措法第8条の規定に基づき、市行動計画を作成する。



<sup>1</sup> 特措法第18条第1項

### 3 市行動計画に定める事項

市行動計画においては、市内における以下に掲げる事項について定める。<sup>2</sup>

ア	新型インフルエンザ等対策の総合的な推進に関する事項
イ	市が実施する次に掲げる措置に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新型インフルエンザ等に関する情報の事業者及び市民への適切な方法による提供</li> <li>・ 市民に対する予防接種の実施その他の新型インフルエンザ等のまん延の防止に関する措置</li> <li>・ 生活環境の保全その他の市民の生活及び地域経済の安定に関する措置</li> </ul>
ウ	新型インフルエンザ等対策を実施するための体制に関する事項
エ	新型インフルエンザ等対策の実施に関する他の地方公共団体その他の関係機関との連携に関する事項
オ	新型インフルエンザ等対策に関し市長が必要と認める事項

### 第2 市行動計画の構成

新型インフルエンザ等対策は、発生等の状況に応じてとるべき対応が異なることから、事前の準備を進め、状況の変化に即応した意思決定を迅速に行うことができるよう、予め発生段階を設け、各段階において想定される状況に応じた対応方針を定めておく必要がある。

市行動計画は総論と各段階における対策の2章構成とし、第2章は、5つの発生段階に分類して記載する。

なお、各発生段階は、想定状況とともに、後述する主要項目ごとに記載する。

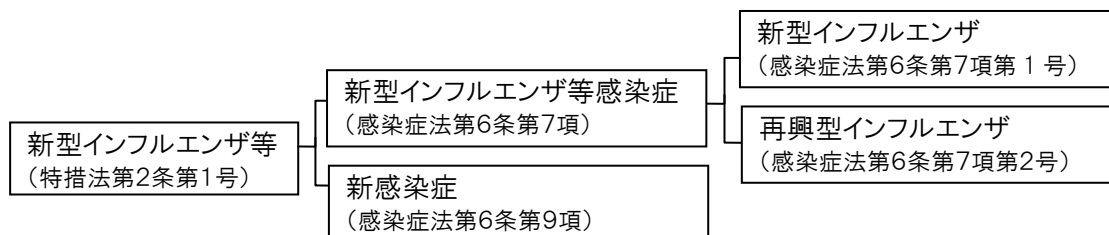
<p>〔構成〕</p> <p>第1章 総論</p> <p>第2章 各段階における対策</p> <p>第1節 未発生期</p> <p>第2節 海外発生期</p> <p>第3節 国内発生早期</p> <p>第4節 国内感染期</p> <p>第5節 小康期</p>	<p>〔主要項目〕</p> <p>① 実施体制</p> <p>② サーベイランス・情報収集</p> <p>③ 情報提供・共有</p> <p>④ 予防・まん延防止</p> <p>⑤ 医療等</p> <p>⑥ 市民生活・地域経済の安定の確保</p>
---	--

<sup>2</sup> 特措法第8条第2項

### 第3 市行動計画の対象とする感染症

市行動計画の対象とする感染症（以下「新型インフルエンザ等」という。）は、以下のとおりである。

- 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（以下「感染症法」という。）第6条第7項に規定する新型インフルエンザ等感染症（以下「新型インフルエンザ<sup>3</sup>」という。）
- 感染症法第6条第9項に規定する新感染症<sup>4</sup>で、その感染力の強さから新型インフルエンザと同様に社会的影響が大きなもの



<sup>3</sup> 新型インフルエンザ（感染症法第6条第7項第1号）：新たに人から人に伝染する能力を有することとなったウイルスを病原体とするインフルエンザであって、一般に国民が当該感染症に対する免疫を獲得していないことから、当該感染症の全国的かつ急速なまん延により国民の生命及び健康に重大な影響をあたえるおそれがあると認められるもの。

再興型インフルエンザ（感染症法第6条第7項第2号）：かつて世界的規模で流行したインフルエンザであってその後流行することなく長期間が経過しているものとして厚生労働大臣が定めるものが再興したものであって、一般に現在の国民の大部分が当該感染症に対する免疫を獲得していないことから、当該感染症の全国的かつ急速なまん延により国民の生命及び健康に重大な影響をあたえるおそれがあると認められるもの。

<sup>4</sup> 新感染症（感染症法第6条第9項）：人から人に伝染すると認められる疾病であって、既に知られている感染症の疾病とその病状または治療の結果が明らかに異なるもので、津尾賀医疾病に罹った場合の病状の程度があり重篤であり、かつ、当該疾病のまん延により国民の生命及び健康に重大な影響をあたえるおそれがあると認められるもの。



## 第2節 新型インフルエンザ等対策に関する基本方針

### 第1 新型インフルエンザ等対策の目的及び基本的な戦略

新型インフルエンザの発生時期を正確に予知することは困難であり、また、その発生そのものの阻止は不可能である。また、世界中のどこかで新型インフルエンザ等が発生すれば、我が国への侵入も避けられないと考えられる。病原性が高くまん延のおそれのある新型インフルエンザ等が万一発生すれば、市民の生命や健康、経済全体にも大きな影響を与えかねない。このため、新型インフルエンザ等については、長期的には、市民の多くが患するものだが、患者の発生が一定の期間に偏ってしまった場合、医療提供のキャパシティ（許容量）を超えてしまうということを念頭におきつつ、新型インフルエンザ等対策を市の危機管理に関わる重要な課題と位置付け、次の2点を主たる目的として対策を講じていく。

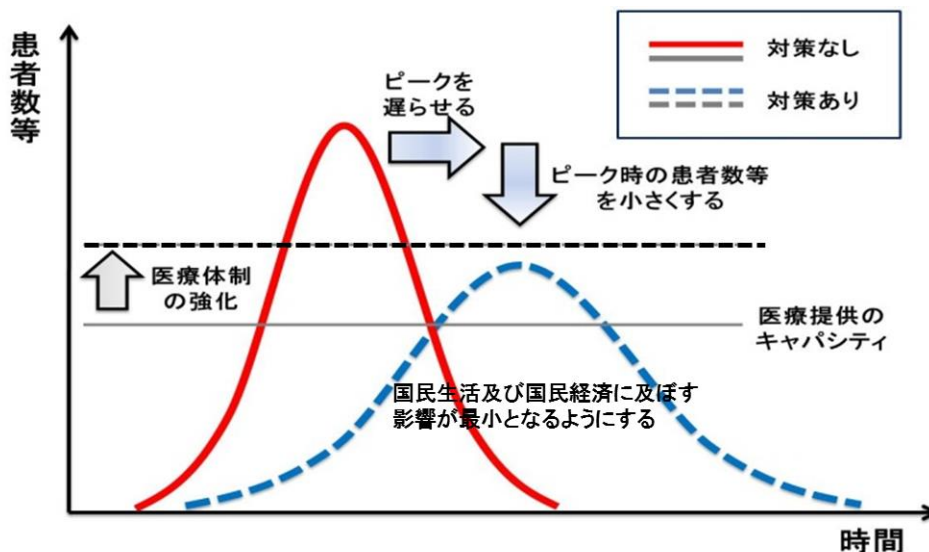
#### 感染拡大を可能な限り抑制し、市民の生命及び健康を保護する。

- ・感染拡大を抑えて、流行のピークを遅らせ、医療体制の整備やワクチン製造のための時間を確保する。
- ・流行のピーク時の患者数等をなるべく少なくして医療体制への負荷を軽減するとともに、医療体制の強化を図ることで、患者数等が医療提供のキャパシティを超えないようにすることにより、必要な患者が適切な医療を受けられるようにする。
- ・適切な医療の提供により、重症者数や死亡者数を減らす。

#### 市民の生活及び地域経済に及ぼす影響が最小となるようにする。

- ・地域での感染拡大防止策等により、欠勤者の数を減らす。
- ・事業継続計画の作成・実施等により、医療の提供の業務又は市民生活及び地域経済の安定に寄与する業務の維持に努める。

〔対策効果の概念図（政府行動計画抜粋）〕



## 第2 新型インフルエンザ等対策の基本的考え方

政府行動計画・県行動計画において、新型インフルエンザ等対策の基本的な考え方を次のとおり示しており、市の対策も、この考え方に基づいて行うものとする。

### 県行動計画から抜粋

新型インフルエンザ等対策は、発生の段階や状況の変化に応じて柔軟に対応していく必要があることを念頭に置かなければならない。過去のインフルエンザのパンデミックの経験等を踏まえると、一つの対策に偏重して準備を行うことは、大きなリスクを背負うことになりかねない。本政府行動計画は、病原性の高い新型インフルエンザ等への対応を念頭に置きつつ、発生した感染症の特性を踏まえ、病原性が低い場合等様々な状況で対応できるよう、対策の選択肢を示すものである。

そこで、我が国においては、科学的知見及び各国の対策も視野に入れながら、我が国の地理的な条件、大都市への人口集中、交通機関の発達度等の社会状況、医療体制、受診行動の特徴等の国民性も考慮しつつ、各種対策を総合的・効果的に組み合わせてバランスのとれた戦略を目指すこととする。その上で、新型インフルエンザ等の発生前から流行が収まるまでの状況に応じて、次の点を柱とする一連の流れをもった戦略を確立する。

なお、実際に新型インフルエンザ等が発生した際には、病原性・感染力等の病原体の特徴、流行の状況、地域の特性、その他の状況を踏まえ、人権への配慮や、対策の有効性、実行可能性及び対策そのものが国民生活及び国民経済に与える影響等を総合的に勘案し、行動計画等で記載するものの内から、実施すべき対策を選択し決定する。

- 発生前の段階では、水際対策<sup>5</sup>の実施体制の構築、抗インフルエンザウイルス薬等の備蓄や地域における医療体制の整備、ワクチンの研究・開発と供給体制の整備、国民に対する啓発や政府・企業による事業継続計画等の策定など、発生に備えた事前の準備を周到に行っておくことが重要である。
- 世界で新型インフルエンザ等が海外で発生した段階では、直ちに、対策実施のための体制に切り替える。  
 新型インフルエンザ等が海外で発生した場合、病原体の国内への侵入を防ぐことは不可能であるということを前提として対策を策定することが必要である。海外で発生している段階で、国内の万全の体制を構築するためには、我が国が島国であるとの特性を生かし、検疫の強化等により、病原体の国内侵入の時期をできる限り遅らせることが重要である。
- 国内の発生当初の段階では、患者の入院措置や抗インフルエンザウイルス薬等による治

<sup>5</sup> 水際対策は、あくまでも国内発生をできるだけ遅らせる効果を期待して行われるものであり、ウイルスの侵入を完全に防ぐための対策ではない。

療、感染のおそれのある者の外出自粛やその者に対する抗インフルエンザウイルス薬の予防投与の検討、病原性に応じては、不要不急の外出の自粛要請や施設の使用制限等を行い、感染拡大のスピードをできる限り抑えることを目的とした各般の対策を講ずる。

- なお、国内外の発生当初などの病原性・感染力等に関する情報が限られている場合には、過去の知見等も踏まえ最も被害が大きい場合を想定し、強力な対策を実施するが、常に新しい情報を収集し、対策の必要性を評価し、更なる情報が得られ次第、適切な対策へと切り替えることとする。また、状況の進展に応じて、必要性の低下した対策についてはその縮小・中止を図るなど見直しを行うこととする。
- 国内で感染が拡大した段階では、国、地方公共団体、事業者等は相互に連携して、医療の確保や国民生活・国民経済の維持のために最大限の努力を行う必要があるが、社会は緊張し、いろいろな事態が生じることが想定される。したがって、あらかじめ決めておいたとおりにはいかないことが考えられ、社会の状況を把握し、状況に応じて臨機応変に対処していくことが求められる。
- 事態によっては、地域の実情等に応じて、都道府県や各省等が新型インフルエンザ等対策本部<sup>6</sup>（以下「政府対策本部」という。）と協議の上、柔軟に対策を講じることができるようにし、医療機関を含めた現場が動きやすくなるような配慮・工夫を行う。

国民の生命及び健康に著しく重大な被害を与えるおそれがある新型インフルエンザ等への対策は、不要不急の外出の自粛要請、施設の使用制限等の要請、各事業者における業務縮小等による接触機会の抑制など医療対応以外の感染対策と、ワクチンや抗インフルエンザウイルス薬等を含めた医療対応を組み合わせる総合的に行うことが必要である。

特に、医療対応以外の感染対策については、社会全体で取り組むことにより効果が期待されるものであり、全ての事業者が自発的に職場における感染予防に取り組むことはもちろん、感染拡大を防止する観点から、継続する重要業務を絞り込むなどの対策を実施することについて積極的に検討することが重要である。

事業者の従業員のり患等により、一定期間、事業者のサービス提供水準が相当程度低下する可能性を許容すべきことを国民に呼びかけることも必要である。

また、新型インフルエンザ等のまん延による医療体制の限界や社会的混乱を回避するためには、国、都道府県、市町、指定（地方）公共機関による対策だけでは限界があり、事業者や国民一人一人が、感染予防や感染拡大防止のための適切な行動や備蓄などの準備を行うこ

<sup>6</sup> 特措法第15条

とが必要である。新型インフルエンザ等対策は、日頃からの手洗いなど、季節性インフルエンザに対する対策が基本となる。特に、治療薬やワクチンが無い可能性が高い SARS<sup>7</sup>のような新感染症が発生した場合、公衆衛生対策がより重要である。

国・県の示す基本的考え方を踏まえ、連携をとりながら必要な施策を講じていくものとする。

### 第3 新型インフルエンザ等対策実施上の留意点

市、国、県、他の市町、指定（地方）公共機関は、新型インフルエンザ等発生に備え、また発生したときに、特措法、その他の法令、政府行動計画、県行動計画及び市行動計画又は業務計画に基づき、相互に連携協力し、新型インフルエンザ等対策の的確かつ迅速な実施に万全を期す。この場合において、次の点に留意する。

#### ① 基本的人権の尊重

新型インフルエンザ等対策の実施に当たっては、基本的人権を尊重することとし、検疫のための停留施設の使用<sup>8</sup>、医療関係者への医療等の実施の要請等<sup>9</sup>、不要不急の外出の自粛等の要請、学校、興行場等の使用等制限等の要請等<sup>10</sup>、臨時の医療施設の開設のための土地等の使用<sup>11</sup>、緊急物資の運送等<sup>12</sup>、特定物資の売渡しの要請<sup>13</sup>等の実施に当たって、市民の権利と自由に制限を加える場合は、その制限は当該新型インフルエンザ等対策を実施するため必要最小限<sup>14</sup>のものとする。

実施に当たっては、法令の根拠があることを前提として、市民に対して十分説明し、理解を得ることを基本とする。

#### ② 危機管理としての特措法の性格

特措法は、万一の場合の危機管理のための制度であって、緊急事態に備えてさまざまな措置を講じることができるよう制度設計されている。しかし、新型インフルエンザや新感染症が発生したとしても、病原性の程度や、抗インフルエンザウイルス薬等の対策が有効であるなどにより、新型インフルエンザ等緊急事態<sup>15</sup>の措置（以下「緊急事態措置」という。）を講ずる必要がないこともあり得ると考えられ、どのような場合でもこれらの措置を

<sup>7</sup> 平成15年4月3日、SARS（重症急性呼吸器症候群）は感染症法上の新感染症として位置づけられた。同年7月14日、世界的な研究が進んだことにより、病原体や感染経路、必要となる措置が特定されてきたため、指定感染症として位置づけ。同年10月10日、SARSの一連の状況を契機とした感染症対策の見直しに関する感染症法及び検疫法の一部を改正する法律案が成立し、同法において、感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高いなどの理由から、一類感染症として位置づけられた。なお、現在は二類感染症として位置づけられている。

<sup>8</sup> 特措法第29条

<sup>9</sup> 特措法第31条

<sup>10</sup> 特措法第45条

<sup>11</sup> 特措法第49条

<sup>12</sup> 特措法第54条

<sup>13</sup> 特措法第55条

<sup>14</sup> 特措法第5条

<sup>15</sup> 特措法第32条

講じるというものではないことに留意する。

### ③ 関係機関相互の連携協力の確保

府対策本部、静岡県新型インフルエンザ等対策本部<sup>16</sup>（以下「県対策本部」という。）、伊豆の国市新型インフルエンザ等対策本部<sup>17</sup>（以下「市対策本部」という。）は、相互に緊密な連携を図りつつ、新型インフルエンザ等対策を総合的に推進する。

対策本部長は、必要があると認める時は、県対策本部長に対し、新型インフルエンザ等緊急事態措置に関する総合調整を要請する<sup>18</sup>。

### ④ 記録の作成・保存

新型インフルエンザ等が発生した段階で、市対策本部における新型インフルエンザ等対策の実施に係る記録を作成し、保存し、公表する。

## 第4 流行規模及び被害想定等

### 1 新型インフルエンザ等発生時の被害想定

新型インフルエンザは、発熱、咳（せき）といった初期症状や飛沫感染、接触感染が主な感染経路と推測される<sup>19</sup>など、基本的にはインフルエンザ共通の特徴を有していると考えられるが、鳥インフルエンザ（H5N1）等に由来する病原性の高い新型インフルエンザの場合には、高い致死率となり、甚大な健康被害が引き起こされることが懸念される。新型インフルエンザの流行規模は、病原体側の要因（出現した新型インフルエンザウイルスの病原性や感染力等）や宿主側の要因（人の免疫の状態等）、社会環境など多くの要因に左右されるものであって、病原性についても高いものから低いものまで様々な場合があり得、その発生の時期も含め、事前にこれらを正確に予測することは不可能である。政府行動計画・県行動計画では、現時点における科学的知見や過去に世界で大流行したインフルエンザのデータを参考にした想定を基に、患者数等の流行規模に関する数値を示しており、本市にあてはめると次のとおり推計されるが、実際に新型インフルエンザが発生した場合、これらの想定を超える事態も、下回る事態もあり得るということを念頭において対策を検討することが重要である。

なお、被害想定については、現時点においても多くの議論があり、科学的知見が十分とは言えないことから政府行動計画において、引き続き最新の科学的知見の収集に努め、必要に応じて見直しを行うとされている。

#### 《想定》

- ・全人口の25%が新型インフルエンザに罹患
- ・過去に世界で大流行したインフルエンザにより、中等度を致命率0.53%（アジアインフルエンザ等のデータ）、重度を致命率2.0%（スペインインフルエンザのデータ）と想定

<sup>16</sup> 特措法第23条

<sup>17</sup> 特措法第34条

<sup>18</sup> 特措法第36条第7項

<sup>19</sup> WHO “Pandemic Influenza Preparedness and Response” 2009年（平成21年）WHO ガイダンス文書

- 入院患者数、死亡者数、1日当たりの最大入院患者数は、医療機関受診患者数の推計の上限値を基として推計
- 1日当たりの最大入院患者数は、流行が各地域で約8週間続くという仮定の下での入院患者の発生分布を試算した結果

新型インフルエンザ患者数の推計

	全国		静岡県		伊豆の国市	
	中等度	重度	中等度	重度	中等度	重度
医療機関受診患者数	約 1,300万人～ 約 2,500万人 <sup>20</sup>		約 38万2千人～ 約 73万5千人		約 5,000人～ 約 9,600人	
入院患者数	約 53万 人	約 200万 人	約 1万 6千人	約 5万 9千人	約 200人	約 770人
死者数	約 17万 人	約 64万 人	約 5千人	約 1万 9千人	約 70人	約 250人
1日当たりの最大入院患者数 <sup>21</sup>	約 10万 1千人	約 39万 9千人	約 3千人	約 1万 2千人	約 40人	約 160人

※静岡県・伊豆の国市の推計は、平成22年国勢調査から試算

- この推計に当たっては、新型インフルエンザワクチンや抗インフルエンザウイルス薬等による介入の影響（効果）、現在の我が国の医療体制、衛生状況等を一切考慮していない。
- 被害想定については、現時点においても多くの議論があり、科学的知見が十分とは言えないことから、政府行動計画においては、引き続き最新の科学的知見の収集に努め、必要に応じて見直しを行うとされている。

なお、未知の感染症である新感染症については、被害を想定することは困難であるが、新感染症の中で、全国的かつ急速なまん延のおそれのあるものは新型インフルエンザと同様に社会的影響が大きく、国家の危機管理として対応する必要があり、併せて特措法の対象とされたところである。そのため、新型インフルエンザの発生を前提とした被害想定を参考に新感染症も含めた対策を検討・実施することとなる。このため、今までの知見に基づき飛沫感染・接触感染への対策を基本としつつも、空気感染も念頭に置く必要がある。

## 2 新型インフルエンザ等発生時の社会への影響

新型インフルエンザ等による社会への影響の想定には多くの議論があるが、一つの例として以下のような影響が想定される。

- 市民の25%が、流行期間（約8週間）にピークを作りながら順次り患する。り患者は1週間から10日間程度り患し、欠勤。り患した従業員の大部分は、一定の欠勤期間後、治癒し（免疫を得て）、職場に復帰する。

<sup>20</sup> 米国疾病予防センターの推計もモデルによる推計

<sup>21</sup> 流行発生から5週目と推計される

- ピーク時（約2週間<sup>22</sup>）に従業員が発症して欠勤する割合は、多く見積もって5%程度<sup>23</sup>と考えられるが、従業員自身のり患のほか、むしろ家族の世話、看護等（学校・保育施設等の臨時休業や、一部の福祉サービスの縮小、家庭での療養などによる）のため、出勤が困難となる者、不安により出勤しない者がいることを見込み、ピーク時（約2週間）には従業員の最大40%程度が欠勤するケースが想定される。

## 第5 対策推進のための役割分担

市及び市民は、発生前の準備及び発生時に、おおむね以下に掲げる新型インフルエンザ等対策を実施する。

### 1 市

事務又は業務の大綱	
1	市行動計画の作成
2	市対策本部の設置、運営
3	組織の整備、訓練
4	予防接種体制の確保
5	予防・まん延防止
6	市民に対する情報提供
7	市民の生活支援
8	要援護者への支援
9	県、近隣市町、関係機関との緊密な連携

### 2 市民

事務又は業務の大綱	
1	発生に備えた知識の取得
2	発生前からの季節性インフルエンザにおいても行っている、マスク着用 <sup>24</sup> ・咳エチケット・手洗い・うがい <sup>25</sup> 等の個人レベルでの感染対策の実践
3	発生に備えた食料品・生活必需品等の備蓄
4	個人レベルでの感染対策の実施 <sup>26</sup>

<sup>22</sup> アメリカ・カナダの行動計画において、ピーク期間は約2週間と設定されている。

National Strategy for pandemic influenza (Homeland Security Council, May 2006)

The Canadian Pandemic Influenza Plan for the Health Sector (The Canadian Pandemic Influenza Plan for the Health Sector (Public Health Agency of Canada, Dec 2006))

<sup>23</sup> 2009年に発生した新型インフルエンザ(A/H1N1)のピーク時にり患した者は県民の約1%（推定）

<sup>24</sup> 患者はマスクを着用することで他者への感染を減らすことができる。他者からの感染を防ぐ目的では、手洗い等との組み合わせにより一定の予防効果があったとする報告もあるが、インフルエンザの予防効果に関する賛否が分かれており、科学的根拠は未だ確立されていない。

<sup>25</sup> うがいについては、風邪等の上気道感染症の予防への効果があるとする報告もあるが、インフルエンザの予防効果に関する科学的根拠は未だ確立されていない。

<sup>26</sup> 特措法第4条第1項

県行動計画から抜粋

3	<b>医療機関</b>
	事務又は業務の大綱
	1 診療継続計画の策定
	2 院内感染対策、医療資器材の確保等
	3 地域における医療連携体制の整備
4 医療の提供	
6	<b>一般の事業者</b>
	事務又は業務の大綱
	1 発生に備えた感染対策の実施
2 感染防止措置の徹底、一部事業の縮小 <sup>27</sup>	

国・県と連携をとりながら必要な施策を講じるものとする。

## 第6 市行動計画の主要6項目

市行動計画は、新型インフルエンザ等対策の2つの主たる目的である「感染拡大を可能な限り抑制し、市民の生命及び健康を保護する」こと及び「市民生活及び地域経済に及ぼす影響が最小となるようにする」ことを達成するための戦略を実現する具体的な対策について、政府・県行動計画と合わせ「①実施体制」、「②サーベイランス・情報収集」、「③情報提供・共有」、「④予防・まん延防止<sup>28</sup>」、「⑤医療等」、「⑥市民生活・地域経済の安定の確保」の6項目に分けて立案している。各項目の対策については、発生段階ごとに記述するが、横断的な留意点等については以下のとおりである。

### 1 実施体制

新型インフルエンザ等は、その病原性が高く感染力が強い場合、多数の国民の生命・健康に甚大な被害を及ぼすほか、全国的な社会・経済活動の縮小・停滞を招くおそれがあり、国は、国家の危機管理の問題として取り組む必要があるとしている。

このため、国、県、市、事業者は、相互に連携を図り、一体となった取組を行う。

新型インフルエンザ等が発生する前においては、市では、既存の会議体等の枠組みを通じ、事前準備の進捗を確認し、庁内各課の連携を確保しながら、一体となった取組みを推進する。さらに、関係各課においては、県や事業者との連携を強化し、発生時に備えた準備を進める。

新型インフルエンザ等が発生し、政府対策本部長から新型インフルエンザ等緊急事態宣言等がされた場合は、特措法及び伊豆の国市新型インフルエンザ等対策本部条例(平成25年伊豆の国市条例第7号)に基づき速やかに市対策本部を設置し、必要な措置を講じる。新型インフルエンザ等が発生しているが、市対策本部が設置されていない場合は、新型インフルエン

<sup>27</sup> 特措法第4条第1項及び第2項

<sup>28</sup> まん延防止とは、インフルエンザの場合、疾患の特性（不顕性感染の存在、感染力等）から感染の拡大を完全に防ぎとめることは不可能であり、流行のピークを出来るだけ遅らせ、またそのピーク時の患者数を小さくすることである。



ザ等対策検討委員会(以下、「検討委員会」という。)を設置し、庁内各課の情報の共有、連携の確保し、必要な措置を講じる。

新型インフルエンザ等対策検討委員会	市新型インフルエンザ対策の連携体制の確認、訓練等を行う。	市長、副市長、教育長、各部長、危機管理担当課長、感染症担当課長
-------------------	------------------------------	---------------------------------

## 2 サーベイランス・情報収集

### (1) 情報収集

国及び県を通じ、またインターネット等により新型インフルエンザ等に関する国内外の情報収集をする。

### (2) サーベイランス

インフルエンザの感染拡大を早期に探知するため、通常行われている集団かぜ（インフルエンザ様疾患）の発生報告（学級・学校閉鎖等）を徹底するよう学校関係者等の協力を求め県へ報告する。

#### 県行動計画から抜粋

新型インフルエンザ等対策を適時適切に実施するためには、サーベイランスにより、いずれの段階においても、新型インフルエンザ等に関する様々な情報を、国内外から系統的に収集・分析し判断につなげること、また、サーベイランスの結果を関係者に迅速かつ定期的に還元することにより、効果的な対策に結び付けることが重要である。

なお、未知の感染症である新感染症に対するサーベイランスは現時点では行っていないため、本項目では新型インフルエンザに限って記載するが、新感染症が発生した場合は、国及び関係機関と連携し、早期に症例定義の周知や診断方法を確立し、県内のサーベイランス体制を構築する。

海外で発生した段階から国内の患者数が少ない段階までは、情報が限られており、県及び保健所設置市は、患者の全数把握等のサーベイランス体制の強化を図り、国が行う患者の臨床像等の特徴の把握、積極的な情報収集、分析に協力する。

国内の患者数が増加し、新型インフルエンザの特徴や患者の臨床像等の情報が蓄積された時点では、患者の全数把握は、その意義が低下し、また、県、市町及び医療現場の負担も過大となることから、入院患者及び死亡者に限定した情報収集に切り替える。

サーベイランスにより把握された流行の開始時期や規模等の情報は、地域における医療体制等の確保に活用する。また、地域で流行する病原体の性状（インフルエンザウイルスの亜型や薬剤耐性等）に関する情報や、死亡者を含む重症者の状況に関する情報は、医療機関における診療に役立てる。

また、鳥類、豚におけるインフルエンザウイルスのサーベイランスを行い、これらの動物の間での発生動向を把握する。

国・県と連携をとり新型インフルエンザに関する情報収集を行っていく。

### 3 情報提供・共有

#### (1) 情報提供・共有の目的

市の危機管理に関わる重要な課題という共通の理解の下に、市、医療機関、事業者、個人の各々が役割を認識し、十分な情報を基に判断し適切な行動をとるため、対策の全ての段階、分野において、国、県、市、医療機関、事業者、個人の間でのコミュニケーションが必須である。コミュニケーションは双方向性のものであり、一方向性の情報提供だけでなく、情報共有や情報の受取手の反応の把握までも含むことに留意する。

#### (2) 情報提供手段の確保

市民については、情報を受け取る媒体や情報の受け取り方が千差万別であることが考えられるため、外国人、障がい者など情報が届きにくい人にも配慮し、受取手に応じた情報提供のためインターネットを含めた多様な媒体を用いて、理解しやすい内容で、できる限り迅速に情報提供を行う。

#### (3) 発生前における市民等への情報提供

発生時の危機に対応する情報提供だけでなく、予防的対策として、発生前においても、新型インフルエンザ等の予防及びまん延の防止に関する情報や様々な調査研究の結果などを市民のほか、医療機関、事業者等に情報提供する。こうした適切な情報提供を通し、発生した場合の新型インフルエンザ等対策に関し周知を図り、納得してもらうことが、いざ発生した時に市民に正しく行動してもらう上で必要である。特に児童、生徒等に対しては、学校は集団感染が発生するなど、地域における感染拡大の起点となりやすいことから、危機管理課、健康づくり課及び、学校教育課、幼児教育課等は連携して、感染症や公衆衛生について丁寧に情報提供していくことが必要である。

#### (4) 発生時における市民等への情報提供及び共有

新型インフルエンザ等の発生時には、発生段階に応じて、国内外の発生状況、対策の実施状況等について、特に、対策の決定のプロセス（科学的知見を踏まえてどのような事項を考慮してどのように判断がなされたのか等）や、対策の理由、対策の実施主体を明確にしながら、患者等の人権にも配慮して迅速かつ分かりやすい情報提供を行う。

市民への情報提供に当たっては、媒体の中でも、テレビ、新聞等のマスメディアの役割が重要であり、その協力が不可欠である<sup>29</sup>。提供する情報の内容については、個人情報の保護と公益性に十分配慮して伝えることが重要である。また、誤った情報が出た場合は、風評被害を考慮し、個々に打ち消す情報を発信する必要がある。

市民の情報を受け取る媒体や情報の受け取り方が千差万別であることが考えられるため、情報が届きにくい人にも配慮し、多様な媒体を用いて、理解しやすい内容で、できる限り迅速に情報提供を行う。

<sup>29</sup> マスメディアについては、言論その他表現の自由が確保されるよう特段の配慮を行う

媒体の活用に加え、国・県が直接情報提供を行う手段として活用するホームページ（HP）、ソーシャルネットワークサービス（SNS）等の情報提供を行う。

また、新型インフルエンザ等には誰もが感染する可能性があること（感染したことについて、患者やその関係者には責任はないこと）、個人レベルでの対策が全体の対策推進に大きく寄与することを伝え、発生前から認識の共有を図ることも重要である。

#### （５）情報提供体制

情報提供に当たっては、提供する情報の内容について統一を図ることが肝要であり、情報を集約して一元的に発信する体制を構築する。

また、提供する情報の内容に応じた適切な者が情報を発信することも重要である。さらに、コミュニケーションは双方向性のものであることに留意し、必要に応じ、地域において市民の不安等に応えるための説明の手段を講じるとともに、常に発信した情報に対する情報の受取手の反応などを分析し、次の情報提供に活かしていく。

### 4 予防・まん延防止

#### （１）予防・まん延防止の目的

新型インフルエンザ等のまん延防止対策は、流行のピークをできるだけ遅らせることで体制の整備を図るための時間を確保することにつながる。また、流行のピーク時の受診患者数等を減少させ、入院患者数を最小限にとどめ、医療体制が対応可能な範囲内に収めることにつながる。

個人対策や地域対策、職場対策・予防接種などの複数の対策を組み合わせるが、まん延防止対策には、個人の行動を制限する面や、対策そのものが社会・経済活動に影響を与える面もあることを踏まえ、対策の効果と影響とを総合的に勘案し、新型インフルエンザ等の病原性・感染力等に関する情報や発生状況の変化に応じて、実施する対策の決定、実施している対策の縮小・中止を行う。

#### （２）主なまん延防止対策

個人における対策については、国内における発生の初期の段階から、新型インフルエンザ等の患者に対する入院措置や、患者の同居者等の濃厚接触者に対する感染を防止するための協力（健康観察、外出自粛の要請等）等の感染症法に基づく措置を行うとともに、マスク着用・咳エチケット・手洗い・うがい、人混みを避けること等の基本的な感染対策を実践するよう促す。また、新型インフルエンザ等緊急事態においては、必要に応じ、不要不急の外出の自粛要請等<sup>30</sup>を行う。

地域対策・職場対策については、国内における発生の初期の段階から、個人における対策のほか、職場における感染対策の徹底等の季節性インフルエンザ対策として実施されている感染対策をより強化して実施する。

また、新型インフルエンザ等緊急事態においては、必要に応じ、施設の使用制限の要請

---

<sup>30</sup>特措法第 45 条第 1 項

等<sup>31</sup>を行う。

### (3) 予防接種

#### ア ワクチン

ワクチンの接種により、個人の発症や重症化を防ぐことで、受診患者数を減少させ、入院患者数や重症者数を抑え、医療体制が対応可能な範囲内に収めるよう努めることは、新型インフルエンザ等による健康被害や社会・経済活動への影響を最小限にとどめることにつながる。

新型インフルエンザ対策におけるワクチンについては、製造の元となるウイルス株や製造時期が異なるプレパンデミックワクチンとパンデミックワクチンの2種類がある。なお、新感染症については、発生した感染症によってはワクチンを開発することが困難であることも想定されるため、本項目では新型インフルエンザに限って記載する。

#### イ 特定接種

特定接種とは、特措法第 28 条に基づき、「医療の提供並びに市民生活及び地域経済の安定を確保するため」に行うものであり、政府対策本部長がその緊急の必要があると認めるときに、臨時に行われる予防接種をいう。

特定接種の対象となり得る者は、

①「医療の提供の業務」又は「国民生活及び国民経済の安定に寄与する業務」を行う事業者であって厚生労働大臣の定めるところにより厚生労働大臣の登録を受けているもの（以下「登録事業者」という。）のうちこれらの業務に従事する者（厚生労働大臣の定める基準に該当する者に限る。）

②新型インフルエンザ等対策の実施に携わる国家公務員、地方公務員

であり、その範囲、接種順位等の基本的な考え方は、政府行動計画に示されているが、国は、発生した新型インフルエンザ等の病原性などに応じて政府対策本部が判断し、基本的対処方針により、接種総枠、対象、接種順位、その他関連事項を示すとしている。

登録事業者<sup>32</sup>のうち特定接種対象となり得る者は国を実施主体として、新型インフルエンザ等対策の実施に携わる市職員は市を実施主体として、原則として集団的接種により接種を実施することとなるため、接種が円滑に行えるよう未発生期から接種体制の構築を図る。

#### ウ 住民接種

特措法において、緊急事態措置の一つとして住民に対する予防接種の枠組ができたことから、新型インフルエンザ等緊急事態宣言<sup>33</sup>（以下「緊急事態宣言」という。）が行われている場合については、特措法第46条に基づき、予防接種法第6条第1項の規定（臨時の予防接種）による予防接種を行う。

<sup>31</sup> 特措法第 45 条第 2 項、3 項

<sup>32</sup> 登録事業者のうち「県民生活・地域経済安定分野」の事業者は、接種体制の構築が登録要件となる。

<sup>33</sup> 緊急事態措置を実施すべき期間、区域が公示される。なお、講じられる緊急事態措置は、緊急事態宣言の期間、区域を超えない範囲において別途、個別に決定される。（特措法第 32 条）

一方、緊急事態宣言がなされていない場合については、予防接種法第6条第3項の規定（新臨時接種）に基づく接種を行う。

なお、住民接種の接種順位等の基本的な考え方は政府行動計画に示されているが、実施においては発生した新型インフルエンザの病原性等を踏まえ国が示す住民の接種順位により、住民接種を行う。

市は、原則として集団的接種により、住民接種が円滑に行えるよう接種体制の構築を図る。

#### エ 物資の確保その他必要な協力の県知事への要請

市長は、予防接種を行うため必要があると認めるときは、知事に対して物資の確保やその他必要な協力を要請（以下「要請等」という。）<sup>34</sup>をする。

#### オ その他

鳥獣に関する対応については、国・県の指示に基づいて対応する。

### 5 医療等

県または東部健康福祉センター（保健所）からの依頼があった場合、県が行う医療体制整備に協力する。

#### 県行動計画から抜粋

##### （1）医療の目的

新型インフルエンザ等が発生した場合、全国的かつ急速にまん延し、かつ県民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあることから、医療の提供は、健康被害を最小限にとどめるという目的を達成する上で、不可欠な要素である。また、健康被害を最小限にとどめることは、社会・経済活動への影響を最小限にとどめることにもつながる。

新型インフルエンザ等が大規模にまん延した場合には、患者数の大幅な増大が予測されるが、地域の医療資源（医療従事者、病床数等）には制約があることから、効率的・効果的に医療を提供できる体制を事前に計画しておくことが重要である。特に、地域医療体制の整備に当たっては、新型インフルエンザ等発生時に医療提供を行うこととなる医療機関である指定（地方）公共機関や特定接種の登録事業者となる医療機関を含め、医療提供を行う医療機関や医療従事者への具体的支援についての十分な検討や情報収集が必要である。

##### （2）発生前における医療体制の整備

県及び保健所設置市は、二次医療圏を単位に、保健所を中心として、郡市医師会、地域薬剤師会、地域の中核的医療機関（独立行政法人国立病院機構の病院、大学附属病院、公立病院等）を含む医療機関、薬局、市町、消防等の関係者からなる対策会議

<sup>34</sup>特措法第31条第5項、第46条第6項

(地域新型インフルエンザ等医療専門家会議、地域新型インフルエンザ等連絡会)を設置するなど、地域の関係者と密接に連携を図りながら地域の実情に応じた医療体制の整備を推進する。

県及び保健所設置市は、あらかじめ帰国者・接触者外来を設置する医療機関や公共施設等のリストを作成し設置の準備を行うとともに、帰国者・接触者相談センターの設置の準備を進める。

### (3) 発生時における医療体制の維持・確保

新型インフルエンザ等の国内での発生の早期には、医療の提供は、患者の治療とともに感染対策としても有効である可能性があることから、病原性が低いことが判明しない限り、原則として、感染症法に基づき、新型インフルエンザ等患者等を感染症指定医療機関等へ入院措置を行う。このため、県及び保健所設置市は、感染症病床等の利用計画を事前に策定する。

また、国内での発生の早期では、新型インフルエンザ等の臨床像に関する情報は限られていることから、国が発信する発生した新型インフルエンザ等の診断及び治療に有用な情報を医療現場に迅速に還元する。

新型インフルエンザ等に感染している可能性がより高い、発生国からの帰国者や国内患者の濃厚接触者の診療のために、県内で新型インフルエンザ等が拡がる前の段階までは「帰国者・接触者外来」を設置して診療を行うが、新型インフルエンザ等の患者は帰国者・接触者外来を有しない医療機関を受診する可能性もあることを踏まえて対応する必要がある。このため、帰国者・接触者外来を有しない医療機関も含めて、医療機関内においては、新型インフルエンザ等に感染している可能性がある者とそれ以外の疾患の患者との接触を避ける工夫等を行い院内での感染防止に努める。また、医療従事者は、マスク・ガウン等の個人防護具の使用や健康管理、ワクチンの接種を行い、十分な防御なく患者と接触した際には、必要に応じて抗インフルエンザウイルス薬の予防投与を行う。

県及び保健所設置市は「帰国者・接触者相談センター」を設置し、その周知を図る。帰国者・接触者外来等の地域における医療体制については、一般的な広報によるほか「帰国者・接触者相談センター」において情報提供を行う。

帰国者・接触者外来を有しない医療機関でも患者が見られるようになった場合等には、帰国者・接触者外来を指定しての診療体制から一般の医療機関(内科・小児科等、通常、感染症の診療を行う全ての医療機関)で診療する体制に切り替える。また、患者数が大幅に増加した場合にも対応できるよう、重症者は入院、軽症者は在宅療養に振り分け、医療体制の確保を図ることとする。

その際、感染症指定医療機関等以外の医療機関や臨時の医療施設等に患者を入院させることができるよう、県及び保健所設置市は、事前に、その活用計画を策定しておくとともに、在宅療養の支援体制を整備する。

医療の分野での対策を推進するに当たっては、対策の現場である医療機関等との迅速な情報共有が必須であり、県、市町における連携だけではなく、県医師会・郡市医師会・学会等の関係機関のネットワークの活用が重要である。

#### (4) 医療関係者に対する要請・指示、補償

新型インフルエンザ等の患者等に対する医療の提供を行うため必要があると認めるときは、医師、看護師等その他の政令で定める医療関係者に対し、知事は医療を行うよう要請等を行うことができる。

県は、国と連携して、要請等に応じて患者等に対する医療を行う医療関係者に対して、政令で定める基準に従い、その実費を弁償する<sup>35</sup>。また、医療の提供の要請等に応じた医療関係者が、損害を被った場合には、政令で定めるところにより、その者又はその者の遺族若しくは被扶養者に対して補償をする。<sup>36</sup>

#### (5) 抗インフルエンザウイルス薬等

抗インフルエンザウイルス薬を、現在の備蓄状況や流通の状況等も勘案しつつ、国の方針に基づき計画的かつ安定的に備蓄する。

## 6 市民生活・地域経済の安定の確保

新型インフルエンザは、多くの市民がり患し、各地域での流行が約8週間程度続くと言われている。また、本人や家族のり患等により、市民生活及び地域経済の大幅な縮小と停滞を招くおそれがある。

このため、新型インフルエンザ等発生時に、市民生活及び地域経済への影響を最小限とできるよう、国、県、市、医療機関、指定（地方）公共機関及び登録事業者は特措法に基づき事前に十分準備を行い、一般の事業者においても事前の準備を行うことが重要である。

## 第7 発生段階

新型インフルエンザ等対策は、感染の段階に応じて採るべき対応が異なることから、事前の準備を進め、状況の変化に即応した意思決定を迅速に行うことができるよう、あらかじめ発生の段階を設け、各段階において想定される状況に応じた対応方針を定めておく必要がある。

国全体での発生段階は、わが国の実情に応じた戦略に即して5つの発生段階に分類し、発生段階の移行については、海外や国内での発生状況を踏まえて、政府対策本部により決定<sup>37</sup>される。

また、地域での発生状況は様々であり、その状況に応じ、特に地域での医療提供や感染拡大防止策等について、柔軟に対応する必要があることから、地域における発生段階も定めることとされており、その移行については、必要に応じて国と協議の上で、県が判断するとしている。

市は、行動計画等で定められた対策を段階に応じて実施することとする。

なお、段階の期間は極めて短期間となる可能性があり、また、必ずしも、段階どおりに進行するとは限らないこと、さらには、緊急事態宣言がなされた場合には、対策の内容も変化するということに留意が必要である。

<sup>35</sup> 特措法第62条第2項

<sup>36</sup> 特措法第63条

<sup>37</sup> 国全体の発生段階は公示により示される。

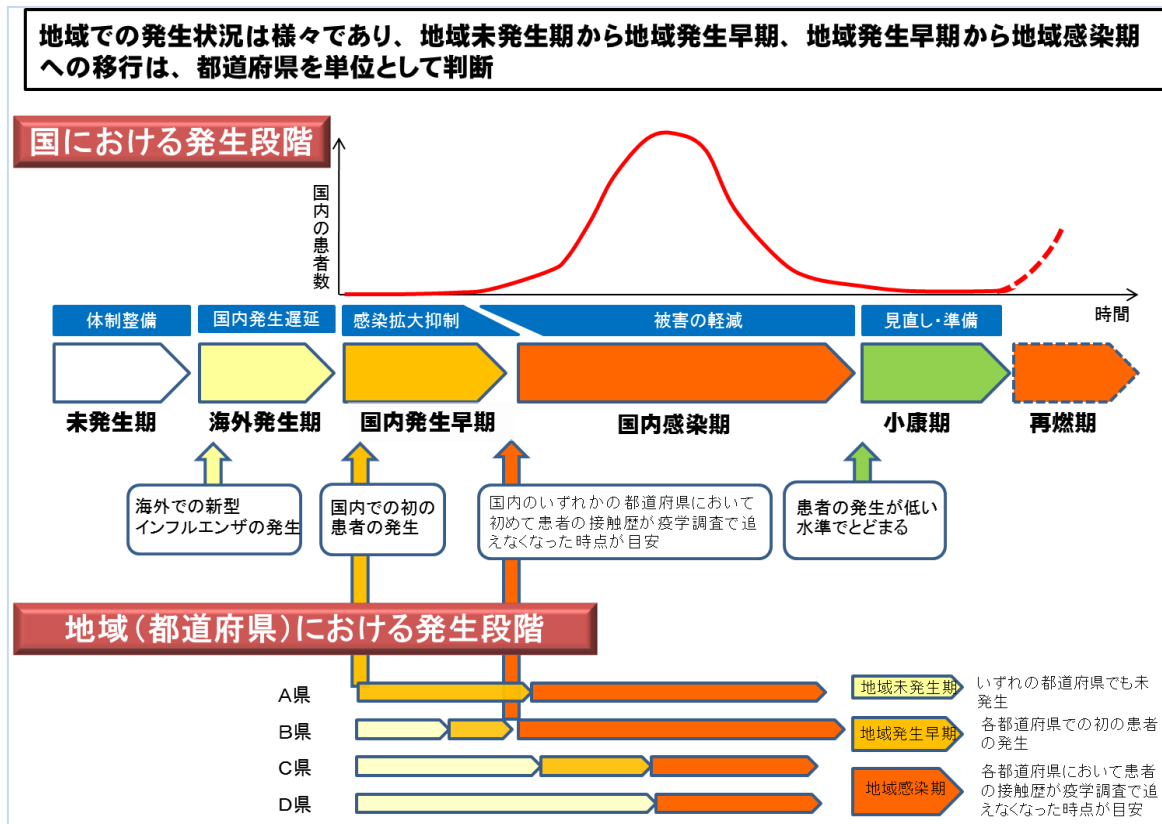
<発生段階とその状態>

発生段階	状態
未発生期	新型インフルエンザ等が発生していない状態
海外発生期	海外で新型インフルエンザ等が発生した状態
国内発生早期	<p>国内のいずれかの都道府県で新型インフルエンザ等の患者が発生しているが、全ての患者の接触歴を疫学調査で追える状態</p> <p>各都道府県においては、以下のいずれかの発生段階。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内未発生期：各都道府県で新型インフルエンザ等の患者が発生していない状態</li> <li>・県内発生早期：各都道府県で新型インフルエンザ等の患者が発生しているが、全ての患者の接触歴を疫学調査で追える状態</li> </ul>
国内感染期	<p>国内のいずれかの都道府県で、新型インフルエンザ等の患者の接触歴が疫学調査で追えなくなった状態</p> <p>県においては、以下のいずれかの発生段階。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内未発生期：各都道府県で新型インフルエンザ等の患者が発生していない状態</li> <li>・県内発生早期：各都道府県で新型インフルエンザ等の患者が発生しているが、全ての患者の接触歴を疫学調査で追える状態</li> <li>・県内感染期：各都道府県で新型インフルエンザの患者等の接触歴が疫学調査で追えなくなった状態</li> </ul> <p>※感染拡大～まん延～患者の減少</p>
小康期	新型インフルエンザ等の患者の発生が減少し、低い水準でとどまっている状態

(政府行動計画を一部改変)



＜国及び地域（都道府県）における発生段階＞



（政府行動計画抜粋）

<新型インフルエンザ等対策の主な流れ>

★緊急事態宣言時 ☆国・県の要請

	未発生期	海外発生期	国内発生早期	国内感染期	小康期
実施体制	* 庁内会議 * 対策検討委員会		* 市対策本部★	* 代行や応援等の措置の活用★	* 対策検討委員会
サーベイラン ス・情報収集	* 集団風邪（インフルエンザ様疾患）の発生報告を徹底するよう学校関係者の協力を求め、県へ報告				
情報提供・共有	* 継続的な情報提供				
	* 相談窓口 設置準備	* 相談窓口設置☆			* 相談窓口縮小
予防・まん延防止	* 個人における対策の普及				
	* 特定接種体制 の構築☆	* 職員の特定接種の実施			
	* 住民接種体制 の構築	* 住民接種実施 の準備☆	* 住民接種の実施（新臨時接種 臨時の予防接種★）		
			* 外出自粛要請★☆ * 施設使用制限等★☆		
医療等	* 医療体制の整備	* 国・県が発信している医療体制の周知		* 在宅で療養して いる患者の支援	
市民生活・地域経済の安定 確保	* 要援護者への生活支援準備 * 火葬能力等の把握 * 物資及び資材の備蓄等			* 要援護者 生活支援★☆	
			* 生活関連物資等の価格の安定等★ * 水の安定供給★		
		* 遺体の安置・火葬準備☆		* 埋葬・火葬の特例実施★☆	

## 第2章 各段階における対策

### 第1節 未発生期

#### 第1 想定状況等

想定状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新型インフルエンザ等が発生していない状態。</li> <li>・ 海外において、鳥等の動物のインフルエンザウイルスが人に感染する例が散発的に発生しているが、人から人への持続的な感染はみられていない状況。</li> </ul>
対策の目標	1) 発生に備えて情報収集や体制の整備を行う。
対策の考え方	<p>1) 新型インフルエンザ等は、いつ発生するか分からないことから、平素から警戒を怠らず、政府行動計画、県行動計画等を踏まえ、国、県、他の市町、指定（地方）公共機関との連携を図り、対応体制の構築や訓練の実施、人材の育成等、事前の準備を推進する。</p> <p>2) 新型インフルエンザ等が発生した場合の対策等に関し、市民及び関係者全体での認識共有を図るため、継続的な情報提供を行う。</p>

#### 第2 実施体制

##### (1) 行動計画の作成

特措法の規定に基づき、発生前から、市行動計画の作成を行い、必要に応じて見直しを行う。

##### (2) 体制整備及び連携強化

ア 新型インフルエンザ等対策を的確かつ迅速に実施するため、既存の会議体等において適宜、情報共有、検討等を行う。

また、鳥インフルエンザ、季節性インフルエンザ、新型インフルエンザ等の発生情報について、必要に応じて、「新型インフルエンザ対策検討委員会」により情報共有を行うとともに、適宜対策を講じる。

イ 新型インフルエンザ等対策に対処するために必要な体制（当直体制等を含む）、職員の参集基準、服務基準、連絡手段及びマニュアル等を整備する。

ウ 国、県、他の市町、指定（地方）公共機関、指定（地方）行政機関と相互に連携し、新型インフルエンザ等の発生に備え、平素から情報交換、連携体制の確認、訓練を実施する<sup>38</sup>。

#### 第3 サーベイランス・情報収集

##### (1) 情報収集

<sup>38</sup> 特措法第12条

国及び県を通じ、またインターネット等により新型インフルエンザ等の対策等に関する国内外の情報を収集する。

＜情報収集源＞

- ・厚生労働省
- ・県

## （２）通常のサーベイランス

市は、インフルエンザの感染拡大を早期に探知するため、通常行われている集団風邪（インフルエンザ様疾患）の発生報告（学級・学校閉鎖等）を徹底するよう学校関係者等の協力を求め、県へ報告する。

## 第４ 情報提供・共有

### （１）継続的な情報提供

ア 新型インフルエンザ等に関する基本的な情報や発生した場合の対策について、各種媒体を利用し、継続的に分かりやすい情報提供を行う<sup>39</sup>。

イ マスク着用・咳エチケット・手洗い・うがい等、季節性インフルエンザに対しても実施すべき個人レベルの感染対策の普及を図る。

### （２）体制整備等

ア 新型インフルエンザ等発生時に、県との連携の下に行う発生状況に応じた市民への情報提供の内容（対策の決定プロセスや対策の理由、個人情報保護と公益性に十分配慮した内容、対策の実施主体）や、時期（定期、臨時等）及び媒体（テレビや新聞等のマスメディア活用を基本とするが、情報の受取手に応じ、利用可能な複数の媒体・機関を活用する）等について検討を行い、あらかじめ想定できるものについては決定しておく。

イ 一元的な情報提供を行うために、情報を集約して分かりやすく継続的に提供するとともに常に情報の受取手の反応や必要としている情報を把握し、更なる情報提供に活かす体制を構築する。

ウ 国、県、関係機関等とメールや電話を活用して、緊急に情報を提供できる体制を構築する。

エ 新型インフルエンザ等発生時に、住民からの相談に応じるため、相談窓口等の設置、周知等の準備を進める。

## 第５ 予防・まん延防止

### （１）対策実施のための準備

ア 個人における対策の普及

マスク着用・咳エチケット・手洗い・うがい、人混みを避ける等の基本的な感染対策の普及を図り、また、自らの発症が疑わしい場合は、帰国者・接触者相談センター<sup>40</sup>に連絡し、指示を仰ぎ、感染を広げないように不要な外出を控えること、マスクの着用等の咳

<sup>39</sup> 特措法第13条

<sup>40</sup> 海外発生期から国内発生早期までの間設置することとなっている。

エチケットを行うといった基本的な感染対策について理解促進を図る。

新型インフルエンザ等緊急事態における不要不急の外出自粛要請の感染対策についての理解促進を図る。

#### イ 地域対策・職場対策の周知

新型インフルエンザ等発生時に実施され得る個人における対策のほか、職場における季節性インフルエンザ対策として実施されている感染防止対策について周知を図るための準備を行う。また、県が行う新型インフルエンザ等緊急事態における施設の使用制限の要請等の対策について周知を図るための準備を行う。

## (2) 予防接種

### ア 特定接種を行う事業者の登録

国が行う登録作業に係る周知、登録申請等に協力する。

### イ 特定接種体制の構築

国の要請を受け、職員に対する特定接種の接種体制を構築する。

### ウ 住民接種体制の構築

(ア) 国及び県の協力を得ながら、特措法第46条又は予防接種法第6条第3項に基づき、市内の区域内に居住する者に対し、速やかにワクチンを接種するための体制の構築を図る。

(イ) 国及び県の技術的な支援<sup>41</sup>を受け、円滑な接種の実施のために、あらかじめ市町間で広域的な協定を締結するなど、伊豆の国市以外の市町における接種を可能にするよう努める。

(ウ) 国による技術的な支援（接種体制の具体的なモデル等）を受け、速やかに接種することができるよう、医師会、事業者、学校関係者等と協力し、接種に携わる医療従事者等の体制や、接種の場所、接種の時期の周知・予約等、接種の具体的な実施方法について準備を進める。

### エ 注射器の備蓄

国の方針に基づき、注射器等の必要な医療器具について、東部保健センター(保健所)、医療機関等と相談の上、備蓄を進める。

## 県行動計画から抜粋

### 4 学校・事業者が行うこと

#### 対策実施のための準備

##### ア 個人における対策の普及

学校・事業所は、マスク着用・咳エチケット・手洗い・うがい・人ごみを避ける等の基本的な感染対策の普及を図り、また、自ら発症が疑わしい場合は、帰国者・接触者相談センターに連絡し、指示を仰ぎ、感染を広げないように不要な外出を控えるこ

<sup>41</sup>国における支援は、工夫事例等を含めた手引きの作成が、県における支援は、住民接種のための医療機関や医療従事者の確保に関する広域的な調整、効率的なワクチン供給の調整の体制整備等についての要請があった場合の協力等が想定されている。

と、マスク等の着用の咳エチケットを行うといった基本的な感染対策について理解促進を図る。

学校等と連携し、必要時協力する。

## 第6 医療等

### (1) 地域医療体制の整備

地域関係者と密接に連携を図り、保健所を中心とした、二次医療圏を単位とした医療体制の整備を推進する。

#### 県行動計画から抜粋

#### 県が行うこと

### (1) 地域医療体制の整備

ア 県は、原則として、二次医療圏を単位に、保健所を中心として、郡市医師会、地域薬剤師会、指定（地方）公共機関を含む地域の中核的医療機関（独立行政法人国立病院機構の病院、大学附属病院、公立病院等）や医療機関、薬局、消防等の関係者からなる対策会議（地域新型インフルエンザ等医療専門家会議、地域新型インフルエンザ等連絡会）を設置し、地域の関係者と密接に連携を図りながら地域の実情に応じた医療体制の整備を推進するとともに、平素から発生時の医療体制について協議、確認を行う。

イ 県は国からの要請に基づき、帰国者・接触者相談センター及び帰国者・接触者外来の設置の準備や、感染症指定医療機関等での入院患者の受入準備を進める。また、一般の医療機関においても、新型インフルエンザ等患者を診療する場合に備えて、個人防護具の準備などの感染対策等を進めるよう要請する。

### (2) 国内感染期に備えた医療の確保

県は、以下の点に留意して、国内感染期に備えた医療の確保に取り組む。

ア 県は、全ての医療機関に対して、医療機関の特性や規模に応じた診療継続計画の作成を要請し、マニュアルを示すなどしてその作成の支援に努める。

イ 県は、地域の実情に応じ、指定（地方）公共機関を含む感染症指定医療機関等のほか、指定（地方）公共機関である医療機関（独立行政法人国立病院機構の病院、日本赤十字病院）又は公的医療機関等（大学附属病院、公立病院、等）で入院患者を優先的に受け入れる体制の整備に努める。

ウ 県は、保健所設置市の協力を得ながら、入院治療が必要な新型インフルエンザ等患者が増加した場合の医療機関における使用可能な病床数（定員超過入院を含む。）等を把握する。

エ 県は、入院治療が必要な新型インフルエンザ等の患者が増加し、医療機関の収容能力を超えた場合に備え、臨時の医療施設等<sup>42</sup>で医療を提供することについて検討する。

<sup>42</sup> 特措法第48条。同条第2項に基づき、知事は必要があると認めるときは、政令で定めるところにより、措置の実施に関する事務の一部を市町長が行うこととすることができる。

オ 県は、地域の医療機能維持の観点から、がん医療や透析医療、産科医療等の常に必要とされる医療を継続するため、必要に応じて新型インフルエンザ等の初診患者の診療を原則として行わないこととする医療機関の設定を検討する。

カ 県は、社会福祉施設等の入所施設において、集団感染が発生した場合の医療提供の方法を検討する。

(3) 手引き等の周知、研修等（健康福祉部）

ア 県は、新型インフルエンザ等の診断、トリアージを含む治療方針、院内感染対策、患者の移送等に関する手引き等を医療機関に周知する。

イ 県は、国及び保健所設置市と連携しながら、相互に医療従事者等に対し、新型インフルエンザ等の発生を想定した研修や訓練を行う。

(4) 医療資器材の整備（健康福祉部）

県は、必要となる医療資器材（個人防護具、人工呼吸器等）をあらかじめ備蓄・整備する。県は、国からの要請を受け、医療機関において、必要な医療資器材や増床の余地に関して調査を行い、十分な量を確保するよう努める。

(5) 検査体制の整備（健康福祉部、くらし・環境部）

県は、国からの要請なら場に技術的支援を受け、環境衛生科学研究所において、新型インフルエンザ等に対するPCR検査等を実施する体制を整備する。

(6) 抗インフルエンザウイルス薬の備蓄

県は、抗インフルエンザウイルス薬を、現在の備蓄状況や流通の状況等も勘案しつつ、国の方針に基づき計画的かつ安定的に備蓄する。

## 第7 市民生活・地域経済の安定の確保

(1) 新型インフルエンザ等発生時の要援護者への生活支援の準備

国の要請に基づき、県と連携し、国内感染期における高齢者、障がい者等の要援護者への生活支援（見回り、介護、訪問看護、訪問診療、食事提供等）、搬送、死亡時の対応等について、要援護者の把握とともにその具体的手続きを決めておく。

(2) 火葬能力等の把握

県が行う火葬又は埋葬を円滑に行うための体制整備を国とともに連携する。

(3) 物資及び資材の備蓄等<sup>43</sup>

新型インフルエンザ等対策の実施に必要な医薬品その他の物資及び資材を備蓄等し、または施設及び設備を整備等行う。

<sup>43</sup> 特措法第10条

## 第2節 海外発生期

### 第1 想定状況等

想定状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外で新型インフルエンザ等が発生した状態</li> <li>・国内では、新型インフルエンザ等の患者は発生していない状態</li> <li>・海外においては、発生国・地域が限定的な場合、流行が複数の国・地域に拡大している場合等、様々な状況が想定される。</li> </ul>
対策の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) <b>新型インフルエンザ等の国内侵入をできるだけ遅らせ、国内発生の遅延と早期発見に努める。</b></li> <li>2) 発生に備えて情報収集や体制の整備を行う。</li> </ol>
対策の考え方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 新たに発生した新型インフルエンザ等の病原性や感染力等について十分な情報がない場合は、病原性・感染力等が高い場合にも対応できる強力な措置をとる。</li> <li>2) 海外での発生状況、新型インフルエンザ等の特徴等に関する情報を収集する。</li> <li>3) 市内発生した場合には早期に発見できるよう情報収集体制を強化する。</li> <li>4) 基本的対処方針等に基づき、医療機関への情報提供、診療体制の確立への協力、市民生活及び地域経済の安定のための準備等、国内発生に備えた体制整備を急ぐとともに、市民、医療機関、事業者に国内発生に備えた準備を促す。</li> </ol>

### 第2 実施体制

- ・基本的対処方針及び県の対策に基づき、新型インフルエンザ等対策を実施する。
- ・政府行動計画及び県行動計画を踏まえ、当初の行動計画を見直す。
- ・関係各部署において、所管事務に関する「業務継続計画」を必要に応じて、随時見直しを行う。
- ・新型インフルエンザに関する最新の情報及び対応方針等を踏まえた各部署の対策について「新型インフルエンザ対策検討委員会」で情報共有を図る。
- ・医療機関等との連携を強化する。

### 第3 サーベイランス・情報収集

#### (1) 国内サーベイランスの強化等

- ア インフルエンザの感染拡大を早期に探知するため、通常行われている集団風邪（インフルエンザ様疾患）の発生報告（学級・学校閉鎖等）を徹底するよう学校関係者等の協力を求め、県へ報告する。
- イ 発生段階の進行に備え、マスクや使い捨て手袋、消毒薬等の備蓄を整える。
- ウ 市庁舎及び公民館・小中学校等の公共施設等において、感染予防・拡大防止策の周知を行う。



- エ 市内事業者に対し、感染予防・拡大防止策の周知を行う。
- オ 公共交通機関において、感染予防・拡大防止策に関する連絡調整を行う。

## (2) 情報収集

- ア 国及び県を通じ、またインターネット等により新型インフルエンザに関わる情報収集をする。
- イ 県を通じて、県内で行われる検疫活動及び新型インフルエンザ疑い例と患者が診断された場合の積極的疫学調査の情報を収集する。

### 県行動計画から抜粋

#### 2 医療機関等が行うこと

- ・医療機関は、国が示す届出基準に基づき、引き続き、新型インフルエンザ等患者（疑い患者を含む。）を診察した場合の届出を行う。

## 第4 情報提供・共有

### (1) 情報提供

- ア 市ホームページ等において、国・県が発信している海外での発生状況及び現在の対策、を随時、情報共有し、市民への注意喚起を行うとともに、市民に正しい知識の普及と推奨する感染予防策を周知する。また、食糧等の備蓄を啓発する。
- イ 新型インフルエンザの感染予防の基本は個人予防であることから、標準予防策である「手洗い」と「うがいの励行」及び「マスクの着用」が高い予防効果があること、及び新型インフルエンザの感染が国外で流行していることを児童・生徒、通園者等を通じて保護者に周知する。
- ウ 市職員を対象に感染予防のための対応等を周知する。
- エ 市職員（特に主となって対応に当たる者）を対象に研修会等を開催する。
- オ 県が行う、発生国からの帰国者や国内患者の濃厚接触者であって発熱・呼吸器症状を有する者にかかる、帰国者・接触者外来における診療体制や、帰国者・接触者相談センターが、県庁及び東部健康福祉センター（保健所）に設置されたことを市民への周知を行う。
- カ 国が示した新型インフルエンザに対する症例定義について、関係各課に周知する。

### (2) 相談窓口等の設置

- ア 国の要請を受け、他の公衆衛生業務に支障をきたさないように、市民からの一般的な問合せに対応できる相談窓口等を設置し、国の作成したQ&A等を活用して、適切な情報提供を行う。
- イ 市民から相談窓口等に寄せられる問い合わせ、国、県、関係機関等から寄せられる情報の内容を踏まえて、市民や関係機関がどのような情報を必要としているかを把握し、

次の情報提供に反映する。

## 第5 予防・まん延防止

### (1) 予防接種

#### ア 特定接種の実施

国と連携して、職員の対象者に対して、本人の同意を得て、基本的に集団的な接種により、特定接種を行う。

#### イ 住民接種

国の要請及び連携のもと、全市民が速やかに接種できるよう、集団的な接種を行うことを基本として、市行動計画において定めた接種体制に基づき、具体的な接種体制の構築の準備を行う。

### (2) 注射器等の備蓄

ワクチンの接種は、国の指針に基づき、注射器等の必要な医療器具について、東部健康福祉センター（保健所）、医療機関等と相談の上、備蓄を進める。

## 第6 医療等

### (1) 情報提供

国及び県が発信している医療体制について住民及び関係機関へ周知する。

県行動計画からの抜粋

#### 第6 医療等

##### (1) 医療体制の整備

ア 県は、国の要請を受け、発生国からの帰国者であって、発熱・呼吸器症状等を有する者については、新型インフルエンザ等に罹患する危険性がそれ以上の患者と大きく異なると考えられる間は、帰国者・接触者外来において診断を行うための、帰国者接触者外来を整備する。

イ 県は、国の要請を受け、帰国者・接触者外来を有しない医療機関を新型インフルエンザ等の患者が受診する可能性もあるため、地域医師会の協力を得て、院内感染対策を講じた上で、診療体制を整備する。

ウ 県は、国の要請を受け、帰国者・接触者外来を有する医療機関等に対し、症例定義を踏まえ新型インフルエンザ等の患者又は疑似症患者と判断した場合は、直ちに保健所に連絡するよう要請する。

エ 県は、国の要請を受け、新型インフルエンザ等の感染が疑われる患者から採取した検体について環境衛生科学研究所において亜型等の道程を行うとともに、国立感染症研究所に確認を依頼する。

##### (2) 帰国者・接触者相談センターの設置

ア 県は、国の要請を受け、帰国者・接触者相談センターを設置する。

イ 県は、国の要請を受け、発生国からの帰国者であって、発熱・呼吸器症状等を有する者は、帰国者・接触者相談センターを通じて、帰国者・接触者外来を受診するよう周知する。

(3) 医療機関等への情報提供

国は、新型インフルエンザ等の診断・治療に資する情報等を、医療従事者に迅速に提供する。

(4) 検査体制の整備

県は、国からの要請並びに技術的支援を受け、環境衛生科学研究所において、新型インフルエンザ等に対するPCR等の検査を実施する体制を整備する。

(5) 抗インフルエンザウイルス薬の備蓄・使用等

ア 県は、抗インフルエンザウイルス薬の備蓄量を把握する。

イ 県は、国と連携のもと、医療機関に対し、備蓄した抗インフルエンザウイルス薬を活用して、患者の同居者、医療従事者又は救急隊員等搬送従事者等に、必要に応じて、抗インフルエンザウイルス薬の予防投与を行うよう要請する。

## 第7 市民生活・地域経済の安定の確保

### (1) 遺体の火葬・安置

国の要請に基づき、火葬場の火葬能力の限界を超える事態が起こった場合に備え、一時的に遺体を安置できる施設等の確保の準備を行う。

県行動計画から抜粋

## 5 一般事業者が行うこと

### (1) 従業員の健康管理及び感染対策の実施

事業者は、国の要請に基づき、従業員の健康管理を徹底するとともに職場における感染対策を実施するための準備を行う。

### 第3節 国内発生早期

#### 第1 想定状況等

想定状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内のいずれかの都道府県で新型インフルエンザ等の患者が発生しているが、全ての患者の接触歴を疫学調査で追うことができる状態</li> <li>・国内でも、都道府県によって状況が異なる場合がある。        (県内未発生期)        県内で新型インフルエンザ等の患者が発生していない状態        (県内発生早期)        県内で新型インフルエンザ等の患者が発生しているが、全ての患者の接触歴を疫学調査で追うことができる状態</li> <li>・海外で確認後、日本国内そして県内に感染が拡大していくとは限らず、日本国内、県内で初めて新型インフルエンザ等が確認される可能性もある。</li> </ul>
対策の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 感染拡大をできる限り抑える。</li> <li>2) 患者に適切な医療を提供する。</li> <li>3) 感染拡大に備えた体制の整備を行う。</li> </ol>
対策の考え方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 感染拡大を止めることは困難であるが、流行のピークを遅らせるため、基本的対処方針に基づき、感染対策等を行う。国内発生した新型インフルエンザ等の状況等により、「緊急事態宣言」が行われ、対象区域とともに公示され、積極的な感染対策等をとる。</li> <li>2) 医療体制や感染対策について、個人一人一人がとるべき行動について十分な理解を得るため、市民への積極的な情報提供を行う。</li> <li>3) 国内での患者数が少なく、症状や治療に関する臨床情報が限られている可能性が高いため、国・県から提供される国内外の情報を医療機関等に提供する。</li> <li>4) 新型インフルエンザ等の患者以外にも、発熱・呼吸器症状を有する多数の者が医療機関を受診することが予想されるため、増大する医療需要への対応を行うとともに、医療機関での院内感染対策を実施する。</li> <li>5) 国内感染期への移行に備えて、医療体制の確保への協力、市民生活・地域経済の安定の確保のための準備等、感染拡大に備えた体制の整備を急ぐ。</li> <li>6) 住民接種を早期に開始できるよう準備を急ぎ、体制が整った場合はできるだけ速やかに実施する。</li> </ol>

#### 第2 実施体制

基本的対処方針に基づき、新型インフルエンザ等対策を実施する。

〔緊急事態宣言がなされた場合〕

- ・伊豆の国市新型インフルエンザ対策本部を設置する。<sup>44</sup>

### 第3 サーベイランス・情報収集

#### (1) 情報収集

国及び県を通じ、またインターネット等により新型インフルエンザに関わる情報を収集する。

#### (2) サーベイランス

インフルエンザの感染拡大を早期に探知するため、通常行われている集団風邪（インフルエンザ様疾患）の発生報告（学級・学校閉鎖等）を徹底するよう学校関係者等の協力を求め、県へ報告する。

県行動計画から抜粋

#### 4 医療機関等が行うこと

医療機関は、国が示す届出基準に基づき、引き続き、新型インフルエンザ等患者（疑い患者を含む。）を診察した場合の届出を行う。

### 第4 情報提供・共有

#### (1) 情報提供

ア 住民に対して利用可能なあらゆる媒体・機関を活用し、県内の発生状況と具体的な対策等を、対策の決定プロセス、対策の理由、対策の実施主体とともに詳細にわかりやすく、できる限りリアルタイムで情報提供する。

イ 特に、住民一人一人がとるべき行動を理解しやすいよう、新型インフルエンザ等には誰もが感染する可能性があることを伝え、個人レベルでの感染対策や感染が疑われ、また患者となった場合の対応(受診の方法等)を周知する。また、学校・保育施設等や職場での感染対策についての情報を適切に提供する。

ウ 住民から相談窓口等に寄せられる問い合わせ、関係機関等から寄せられる情報の内容も踏まえて、住民や関係機関がどのような情報を必要としているかを把握し、必要に応じ、住民の不安等に応じるための情報提供を行うとともに、次の情報提供に反映する。

エ 市職員を対象に感染予防のための対応等を周知する。

オ 市職員（特に主となって対応に当たる者）を対象に研修会等を開催する。

カ 国が示した新型インフルエンザに対する症例定義について、関係各課に周知する。

キ 県が行う、発生国からの帰国者や国内患者の濃厚接触者であって発熱・呼吸器症状を有する者にかかる、帰国者・接触者外来における診療体制や、帰国者・接触者相談センターが、県庁及び東部健康福祉センター（保健所）に設置されたことを市民への周知を

<sup>44</sup> 特措法第34条

行う。

(2) 情報共有

- ア 国、県、関係機関等と対策の方針等をインターネット等により共有する。
- イ 県を通じて、国からの緊急情報提供された関係都道府県の新型インフルエンザ等の発生状況について、関係各課に周知する。

(3) 相談窓口等の体制充実・強化

相談窓口等の体制を充実・強化する。必要に応じ県コールセンターを紹介する。

## 第5 予防・まん延防止

(1) 市内でのまん延防止対策

- ア 県が行うまん延防止対策の実施に協力する。
- イ 廃棄物の収集にあたっては、マスク・手袋・ゴーグルを使用する。
- ウ 国内感染期に備え、マスクや使い捨て手袋、消毒液等を整え、手洗い・うがい、マスクの着用を勧奨する。
- エ 県が行う、公共交通機関に対する利用者へのマスク着用の励行の呼びかけなど適切な感染対策要請に依頼があったら協力する。
- オ 新型インフルエンザの発生について、市民等に対し、手洗い・うがい、マスクの着用をするように勧奨する。

県行動計画から抜粋

### 1 県が行うこと

(1) 県内でのまん延防止対策

- ア 県は、県内発生早期となった場合には、国及び保健所設置市と連携し、感染症法に基づき、患者への対応（治療・入院措置等）や患者の同居者等の濃厚接触者への対応（外出自粛要請、健康観察等）などの措置を行う。
- イ 県は、業界団体等を経由し又は直接、住民、事業者等に対して次の要請を行う。
  - (ア) 住民、事業所、福祉施設等に対し、マスク着用・咳エチケット・手洗い・うがい、人混みを避ける、時差出勤の実施等の基本的な感染対策等を勧奨する。また、事業所に対し、当該感染症の症状が認められた従業員の健康管理・受診の勧奨を要請する。
  - (イ) 事業者に対し、職場における感染対策の徹底を要請する。
  - (ウ) ウイルスの病原性等の状況を踏まえ、必要に応じて、学校・保育施設等における感染対策の実施に資する目安を示すとともに、学校保健安全法に基づく臨時休業（学校閉鎖・学年閉鎖・休校）を適切に行うよう学校の設置者に要請する。
  - (エ) 公共交通機関等に対し、利用者へのマスク着用の励行の呼びかけなど適切な感染対策を講ずるよう要請する。

ウ 県は、国の要請を受け、関係機関に対し、病院、高齢者施設等の基礎疾患を有する者が集まる施設や、多数の者が居住する施設等に対し、感染予防策を強化するよう要請する。

〔緊急事態宣言がされている場合〕

(3) 特措法第45条第1項による予防・まん延防止

県は、特措法第45条第1項に基づき、住民に対し、潜伏期間や治癒までの期間を踏まえて期間を定めて、生活の維持に必要な場合を除きみだりに外出しないことや基本的な感染対策の徹底を要請する。対象となる区域については、人の移動の実態等を踏まえ、まん延防止に効果があると考えられる区域（市町単位、県内の東部、中部、西部や生活圈ごとのブロック単位）とすることが考えられる。

(4) 特措法第45条第2項による予防・まん延防止

県は、特措法第45条第2項に基づき、学校、保育所等（特措法施行令第11条に定める施設に限る。）に対し、期間を定めて、施設の使用制限（臨時休業や入学試験の延期等）の要請を行う。要請に応じず、新型インフルエンザ等のまん延を防止し、県民の生命・健康の保護、県民生活・地域経済の混乱を回避するため特に必要があると認めるときに限り、特措法第45条第3項に基づき、指示を行う。県は、要請・指示を行った際には、その施設名を公表する。

(5) 特措法第24条第9項等による予防・まん延防止

県は、特措法第24条第9項に基づき、学校、保育所等（特措法施行令第11条に定める施設に限る。）以外の施設について、職場も含め感染対策の徹底の要請を行う。特措法第24条第9項の要請に応じず、公衆衛生上の問題が生じていると判断された施設（特措法施行令第11条に定める施設に限る。）に対し、特措法第45条第2項に基づき、施設の使用制限又は基本的な感染対策の徹底の要請を行う。特措法第45条第2項の要請に応じず、新型インフルエンザ等のまん延を防止し、県民の生命・健康の保護、県民生活・地域経済の混乱を回避するため特に必要があると認めるときに限り、特措法第45条第3項に基づき、指示を行う。県は、特措法第45条に基づき、要請・指示を行った際には、その施設名を公表する。

(2) 予防接種

ア 特定接種の実施

国と連携して、職員の対象者に対して、本人の同意を得て、基本的に集団的な接種により、特定接種を行う。

イ 住民接種

国が決定した住民への接種順位の基本的な考え方等に基づき、予防接種法第6条第3項に

基づく新臨時接種を実施する。なお、接種の実施に当たっては、国及び県と連携して、田方医師会の協力を得て、保健所・保健センター・学校など公的な施設を活用し、集団接種で実施する。また、必要に応じて、医療機関に委託すること等により接種会場を確保し、原則として、市内に居住する者を対象に集団的接種を行う。

また、県へ接種に関する情報を提供するとともに、市民に対して情報提供を行う。

〔緊急事態宣言がされている場合〕

## (2) 住民接種

市町は、基本的対処方針の変更を踏まえ、特措法第46条の規定に基づき、予防接種法第6条第1項に規定する臨時の予防接種を実施する。

## ウ 注射器等の備蓄

ワクチンの接種は、国の指針に基づき、注射器等の必要な医療器具について、東部健康福祉センター（保健所）、医療機関等と相談の上、備蓄を進める。

## (3) 市職員

ア 発熱等による病休職員に対し、職員の登庁禁止措置を検討し、必要に応じて発令する。

イ 職員の家族が発熱等の症状が出た場合は、職員の登庁禁止措置を検討し、必要に応じて発令する。

## 第6 医療等

### (1) 情報提供

国及び県が発信している医療体制について住民及び関係機関へ周知する。  
県行動計画から抜粋

## 1 県が行うこと

### (1) 医療体制の整備

県は、国の要請を受け、発生国からの帰国者や国内患者の濃厚接触者であって発熱・呼吸器症状等を有する者に係る、帰国者・接触者外来における診療体制や、帰国者・接触者相談センターにおける相談体制を、海外発生期に引き続き実施する。

県は、患者等が増加してきた段階においては、国の要請を受け、帰国者・接触者外来を指定しての診療体制から一般の医療機関でも診療する体制に移行する。

### (2) 患者への対応等

ア 県は、国と連携し、新型インフルエンザ等と診断された者に対しては原則として、感染症法に基づき、感染症指定医療機関等へ移送し、入院措置を行う。この措置は、病原性が高い場合に実施するが、発生当初は病原性に関する情報が限られていることが想定されることから、病原性が低いことが判明しない限り実施する。県は、国の要請に基づき、患者等が増加してきた段階においては、帰国者・接触者外来を指定しての診療体制から一般の医療機関でも診療する体制に移行する。



イ 県は、国と連携し、必要と判断した場合に、環境衛生科学研究所において、新型インフルエンザ等のPCR検査等の確定検査を行う。全ての新型インフルエンザ等患者のPCR 検査等による確定診断は、患者数が極めて少ない段階で実施するものであり、患者数が増加した段階では、PCR 検査等の確定検査は重症者等に限定して行う。

ウ 県は、国と連携し、医療機関の協力を得て、新型インフルエンザ等患者の同居者等の濃厚接触者及び医療従事者又は救急隊員等であって十分な防御なく曝露した者には、抗インフルエンザウイルス薬の予防投与や有症時の対応を指導する。なお、症状が現れた場合には、感染症指定医療機関等に移送する。

### (3) 医療機関等への情報提供

県は、引き続き、国の発信する新型インフルエンザの診断・治療に資する情報等を医療機関及び医療従事者に迅速に提供する。

### (4) 抗インフルエンザウイルス薬

県は、国及び保健所設置市と連携し、国内感染期に備え、引き続き、医療機関に対し、抗インフルエンザウイルス薬を適切に使用するよう要請する。

### (5) 医療機関・薬局における警戒活動

県警本部は、国の指導・調整により、医療機関・薬局及びその周辺において、混乱による不測の事態の防止を図るため、必要に応じた警戒活動等を行う。

## 第7 市民生活・地域経済の安定の確保

### 1 市が行うこと

#### (1) 遺体の火葬・安置

国の要請に基づき、火葬場の火葬能力の限界を超える事態が起こった場合に備え、一時的に遺体を安置できる施設等の確保ができるよう準備を行う。

〔緊急事態宣言がされている場合〕

#### (2) 生活関連物資等の価格の安定等

ア 生活及び経済の安定のために、物価の安定及び生活関連物資等の適切な供給を図る必要があることから、生活関連物資等の価格が高騰しないよう、また、買占め及び売惜しみが生じないよう、調査・監視をするとともに、必要に応じ、関係事業者団体等に対して供給の確保や便乗値上げの防止等の要請を行う。また、必要に応じ、住民からの相談窓口・情報収集窓口の充実を図る。

### (3) 水の安定供給

水道事業者、水道用水供給事業者及び工業用水道事業者である市町（一部事務組合を含む）は、それぞれの行動計画又は業務計画で定めるところにより、消毒その他衛生上の措置等、水を安定的かつ適切に供給するために必要な措置を講ずる。

## 2 市民が行うこと

### (1) 消費者としての適切な行動

市民は、国の呼びかけに応じ、食料品、生活必需品等の購入に当たって消費者としての適切な対応をとる。

〔緊急事態宣言がされている場合〕

### (2) サービス水準の許容

市民は、まん延した段階において、サービス水準が相当程度低下する可能性があることを主旨とする国の呼びかけに応じる。

## 県行動計画から抜粋

### 1 県が行うこと

#### (1) 指定（地方）公共機関、登録事業者の事業継続

県は、国と連携し、指定（地方）公共機関及び登録事業者が行う業務計画を踏まえた事業継続に向けた準備を促す。

#### (2) 遺体の火葬・安置

県は、国からの要請に基づき、市町に対し、火葬場の火葬能力の限界を超える事態が起こった場合に備え、一時的に遺体を安置できる施設等の確保ができるよう準備を行うよう要請する。

〔緊急事態宣言がされている場合〕

#### (3) 緊急物資の運送等

ア 県は、緊急の必要がある場合には、輸送事業者である指定（地方）公共機関に対し、食料品等の緊急物資の輸送を要請する。

イ 県は、緊急の必要がある場合には、医薬品等販売業者である指定（地方）公共機関に対し、医薬品又は医療機器の配送を要請する。

ウ 正当な理由がないにもかかわらず、イ、ウの要請に応じないときは、県は、必要に応じ、指定（地方）公共機関に対して輸送又は配送を指示する。

#### (4) 物資の売り渡しの要請等<sup>1</sup>

ア 県は、対策の実施に必要な物資の確保に当たって、あらかじめ所有者に対し物資の売渡しの要請同意を得る。なお、当該物資等が使用不能となっている場合や当該物資が既に他の都道府県による収用の対象となっている場合などの正

当な理由がないにもかかわらず、当該所有者等が応じないときは、必要に応じ、物資を収用する。

イ 県は、特定物資の確保のため緊急の必要がある場合には、必要に応じ、事業者に対し特定物資の保管を命じる。

(5) 生活関連物資等の価格の安定等

ア 県は、県民生活及び地域経済の安定のために、物価の安定及び生活関連物資等の適切な供給を図る必要があることから、生活関連物資等の価格が高騰しないよう、また、買占め及び売惜しみが生じないよう、調査・監視をするとともに、必要に応じ、関係事業者団体等に対して供給の確保や便乗値上げの防止等の要請を行う<sup>1</sup>。また、必要に応じ、県民からの相談窓口・情報収集窓口の充実を図る。

(6) 水の安定供給

水道用水供給事業者及び工業用水道事業者である県は、当該事業を継続するために別に定める計画で定めるところにより、水を安定的かつ適切に供給するために必要な措置を講ずる。

(7) 犯罪の予防・取締り

県警は、混乱に乗じて発生が予想される各種犯罪防止をするため、犯罪情報の集約に努め、広報啓発活動を推進するとともに、悪質な事犯に対する取締りを徹底する。

5 一般の事業者が行うこと

(1) 従業員の健康管理及び感染対策の実施

事業者は、従業員の健康管理を徹底するとともに職場における感染対策を講じる。

(2) 食料品、生活関連物資等の価格高騰等の防止

事業者は、食料品、生活関連物資等の価格が高騰しないよう、また、買占め及び売惜しみが生じないよう対応する。

## 第4節 国内感染期

## 第1 想定状況等

想定状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内のいずれかの都道府県で新型インフルエンザ等の患者の接触歴が疫学調査で追うことができなくなった状態</li> <li>・感染拡大からまん延、患者の減少に至る時期を含む。</li> <li>・国内でも、都道府県によって状況が異なる場合がある。        (県内未発生期)        県内で新型インフルエンザ等の患者が発生していない状態        (県内発生早期)        県内で新型インフルエンザ等の患者が発生しているが、全ての患者の接触歴を疫学調査で追うことができる状態        (県内感染期)        県内で新型インフルエンザ等の患者の接触歴が疫学調査で追うことができなくなった状態(感染拡大からまん延、患者の減少に至る時期を含む。)</li> </ul>
対策の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 医療提供体制を維持する。</li> <li>2) 健康被害を最小限に抑える。</li> <li>3) 市民生活及び地域経済への影響を最小限に抑える。</li> </ol>
対策の考え方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 感染拡大を止めることは困難であり、対策の主眼を、早期の積極的な感染拡大防止策から被害軽減に切り替える。</li> <li>2) 地域ごとに発生の状況は異なり、実施すべき対策が異なることから、地域ごとに実施すべき対策の判断を行う。</li> <li>3) 状況に応じた医療体制や感染対策、ワクチン接種、社会・経済活動の状況等について周知し、個人一人一人がとるべき行動について分かりやすく説明するため、積極的な情報提供を行う。</li> <li>4) 流行のピーク時の入院患者や重症者の数をなるべく少なくして医療体制への負担を軽減する。</li> <li>5) 医療体制の維持に全力を尽くし、必要な患者が適切な医療を受けられるようにし健康被害を最小限にとどめる。</li> <li>6) 欠勤者の増大が予測されるが、市民生活・地域経済の影響を最大限に抑えるため必要なライフライン等の事業活動を継続する。また、その他の社会活動をできる限り継続する。</li> <li>7) 受診患者数を減少させ、入院患者数や重症者数を抑え、医療体制への負担を軽減するため、住民接種を早期に開始できるよう準備を急ぎ、体制が整った場合は、できるだけ速やかに実施する。</li> <li>8) 状況の進展に応じて、必要性の低下した対策の縮小・中止を図る。</li> </ol>

## 第2 実施体制

- ・ 検討委員会を開催し、基本的対処方針に基づき、新型インフルエンザ等対策を実施する。

〔緊急事態宣言がされている場合〕

- ・ 緊急事態宣言がなされたときは、直ちに市対策本部を設置する<sup>45</sup>。
- ・ 新型インフルエンザ等のまん延により緊急事態措置を行うことが出来なくなった場合においては、特措法の規定に基づく他の地方公共団体による代行、応援等の措置の活用を行う。

- ・ 県行動計画を踏まえ、当初の行動計画を見直す。
- ・ 各関係部署において、所管事務に関する「業務継続計画」を必要に応じて随時見直しを行う。

## 第3 サーベイランス・情報収集

### (1) 情報収集

国及び県を通じ、またインターネット等により新型インフルエンザ等の発生状況、対応について、必要な情報を収集する。

### (2) サーベイランス

インフルエンザの感染拡大を早期に探知するため、通常行われている集団風邪（インフルエンザ様疾患）の発生報告（学級・学校閉鎖等）を徹底するよう学校関係者等の協力を求め、県へ報告する。

## 第4 情報提供・共有

### (1) 情報提供

ア 引き続き、住民に対し、利用可能なあらゆる媒体・機関を活用し、県内外の発生状況と具体的な対策等を、対策の決定プロセス、対策の理由、対策の実施主体とともに詳細にわかりやすく、できる限りリアルタイムで情報提供する。

イ 引き続き、県民一人一人がとるべき行動を理解しやすいよう、流行状況に応じた医療体制を周知し、学校・保育施設等や職場での感染対策についての情報を適切に提供する。また、社会活動の状況についても、情報提供する。

ウ 引き続き、住民から相談窓口等に寄せられる問い合わせや関係機関等から寄せられる情報の内容も踏まえて、住民や関係機関がどのような情報を必要としているかを把握し、次の情報提供に反映する。

エ 新型インフルエンザの感染予防の基本は個人予防であることから、標準予防策である「手洗い」と「うがいの励行」及び「マスクの着用」が高い予防効果のあることを周知する。

オ 県コールセンターの紹介、国及び県の新型インフルエンザQ&A等をホームページに

<sup>45</sup> 特措法第34条

掲載する。

(2) 情報共有

国、県、関係機関等と対策の方針等絵おインターネット等により共有する。

(3) 相談窓口の充実

国が作成した、状況の変化に応じたQ & Aの改訂版を活用し、国の要請を受け相談窓口等を継続させる。

## 第5 予防・まん延防止

(1) 特定接種の実施

国と連携して、職員の対象者に対して、本人の同意を得て、基本的に集団的な接種により行う特定接種を進める。

(2) 住民接種の実施

国及び県と連携して、予防接種法第6条第3項に基づく新臨時接種を進める。

田方医師会の協力を得て、保健所・保健センター・学校など公的な施設を活用し、集団接種で実施する。また、必要に応じて、医療機関に委託すること等により接種会場を確保し、原則として、市内に居住する者を対象に集団的接種を行う。

〔緊急事態宣言がされている場合〕

(3) 住民接種

住民接種については、基本的対処方針の変更を踏まえ、特措法第46条の規定に基づき、予防接種法第6条第1項に規定する臨時の予防接種を実施する。

## 第6 医療等

国・県と連携し、関係団体の協力を得ながら、患者や医療機関等から要請があった場合には、在宅で療養する患者への支援（見回り、食事の提供、医療機関への移送）や自宅で死亡した患者への対応を行う。

医療体制整備については県が実施することとなっている。

県行動計画から抜粋

### 第6 医療等

#### 1 県が行うこと

(1) 患者への対応等

《県内未発生期、県内発生早期における対応》

県は、引き続き、帰国者・接触者外来における診療、患者の入院措置等を実施する。必要が生じた際には、感染症法に基づく入院措置を中止し、帰国者・接触者外来を指

定しての診療体制から一般の医療機関でも診療する体制に変更する。

《県内感染期における対応》

ア 県は、帰国者・接触者外来、帰国者・接触者相談センター及び感染症法に基づく患者の入院措置を中止し、新型インフルエンザ等の患者の診療を行わないこととしている医療機関等を除き、原則として一般の医療機関でも新型インフルエンザ等の患者の診療を行う体制に変更する。

イ 県は、入院治療は重症患者を対象とし、それ以外の患者に対しては在宅での療養を要請するよう、関係機関に周知する。

ウ 県は、医師が在宅で療養する患者に対する電話による診療により新型インフルエンザ等への感染の有無や慢性疾患の状況について診断ができた場合、医師が抗インフルエンザウイルス薬等の処方箋を発行し、ファクシミリ等により送付することについて、国が示す対応方針を周知する。

エ 県は、医療機関の従業員の勤務状況及び医療資器材・医薬品の在庫状況を確認し、新型インフルエンザ等やその他の疾患に係る診療が継続されるように調整する。

(2) 医療機関等への情報提供

県は国からの発信を受け、引き続き新型インフルエンザ等の診断・治療に資する情報を医療機関及び医療従事者に迅速に提供する。

(3) 抗インフルエンザウイルス薬の備蓄・使用

県は、国が行う抗インフルエンザウイルス薬の備蓄量の把握に協力する。また、県内の抗インフルエンザウイルス薬の流通状況を調査し、患者の発生状況を踏まえ、抗インフルエンザウイルス薬が必要な地域に供給されているかどうかを確認するとともに、不足などあれば国備蓄分の配分を国に依頼する。

(4) 医療機関・薬局における警戒活動

県警察本部は、国の指導・調整により、医療機関・薬局及びその周辺において、混乱による不測の事態の防止を図るため、必要に応じた警戒活動等を行う。

〔緊急事態宣言がされている場合〕

(4) 定員超過入院及び臨時の医療施設の設置

県は、国と連携し、区域内の医療機関が不足した場合、患者治療のための医療機関における定員超過入院<sup>1</sup>（医療法施行規則第10条）等のほか、医療体制の確保、感染防止及び衛生面を考慮し、新型インフルエンザ等を発症し外来診療を受ける必要のある患者や、病状は比較的軽度であるが在宅療養を行うことが困難であり入院診療を受ける必要のある患者等に対する医療の提供を行うため、臨時の医療施設を設置し<sup>1</sup>、医療を提供する。臨時の医療施設において医療を提供した場合は、流行がピークを越えた後、その状況に応じて、患者を医療機関に移送する等により順次閉鎖する。

## 第7 市民生活・地域経済の安定の確保

### 1 市が行うこと

#### (1) 遺体の火葬・安置

国の要請に基づき、火葬場の火葬能力の限界を超える事態が起こった場合に備え、一時的に遺体を安置できる施設等の確保ができるよう準備を行う。

〔緊急事態宣言がされている場合〕

#### (2) 生活関連物資等の価格の安定等

ア 生活及び経済の安定のために、物価の安定及び生活関連物資等の適切な供給を図る必要があることから、生活関連物資等の価格が高騰しないよう、また、買占め及び売惜しみが生じないよう、調査・監視をするとともに、必要に応じ、関係事業者団体等に対して供給の確保や便乗値上げの防止等の要請を行う。

イ 生活関連物資等の需給・価格動向や実施した措置の内容について、国民への迅速かつ適切な情報共有に努めるとともに、必要に応じ、住民からの相談窓口・情報収集窓口の充実を図る。

ウ 生活関連物資等の価格の高騰又は供給不足が生じ、又は生ずるおそれがあるときは、あらかじめ定めるところにより、適切な措置を講ずる。

#### (3) 要援護者への生活支援

国の要請に基づき、在宅の高齢者、障害者等の要援護者への生活支援（見回り、介護、訪問介護、訪問診療、食事提供等）、搬送、死亡時の対応等を行う。

#### (4) 埋葬・火葬の特例等<sup>46</sup>

ア 国の要請に基づき、火葬場の経営者に可能な限り火葬炉を稼働させる。

イ 国の要請に基づき、死亡者が増加し、火葬能力の限界を超えることが明らかになった場合には、一時的に遺体を安置する施設等を直ちに確保する。

#### (5) 水の安定供給

水道用水供給事業者及び工業用水道事業者である市町（一部事務組合を含む）は、それぞれの行動計画又は業務計画で定めるところにより、水を安定的かつ適切に供給するために必要な措置を講ずる。

### 2 市民が行うこと

#### (1) 消費者としての適切な行動

市民は、国の呼びかけに応じ、食料品、生活必需品等の購入に当たって、消費者として、適切対応をとる。

<sup>46</sup> 特措法第56条



〔緊急事態宣言がされている場合〕

サービス水準の許容

市民は、まん延した段階において、サービス水準が相当程度低下する可能性があることを主旨とする国の呼びかけに応じる。

県行動計画から抜粋

## 1 県が行うこと

### (1) 指定（地方）公共機関、登録事業者の事業継続

県は、国と連携し、指定（地方）公共機関及び登録事業者が行う業務計画を踏まえた事業継続に向けた準備を促す。

### (2) 遺体の火葬・安置

県は、国からの要請に基づき、市町に対し、火葬場の火葬能力の限界を超える事態が起こった場合に備え、一時的に遺体を安置できる施設等の確保ができるよう準備を行うよう要請する。

〔緊急事態宣言がされている場合〕

### (3) 緊急物資の運送等

ア 県は、緊急の必要がある場合には、輸送事業者である指定（地方）公共機関に対し、食料品等の緊急物資の輸送を要請する。

イ 県は、緊急の必要がある場合には、医薬品等販売業者である指定（地方）公共機関に対し、医薬品又は医療機器の配送を要請する。

ウ 正当な理由がないにもかかわらず、イ、ウの要請に応じないときは、県は、必要に応じ、指定（地方）公共機関に対して輸送又は配送を指示する

### (4) 物資の売り渡しの要請等<sup>47</sup>

ア 県は、対策の実施に必要な物資の確保に当たって、あらかじめ所有者に対し物資の売渡しの要請同意を得る。なお、当該物資等が使用不能となっている場合や当該物資が既に他の都道府県による収用の対象となっている場合などの正当な理由がないにもかかわらず、当該所有者等が応じないときは、必要に応じ、物資を収用する。

イ 県は、特定物資の確保のため緊急の必要がある場合には、必要に応じ、事業者に対し特定物資の保管を命じる。

### (5) 生活関連物資等の価格の安定等

ア 県は、県民生活及び地域経済の安定のために、物価の安定及び生活関連物資等の適切な供給を図る必要があることから、生活関連物資等の価格が高騰しないよう、また、

<sup>47</sup> 特措法第 55 条

買占め及び売惜しみが生じないよう、調査・監視をするとともに、必要に応じ、関係事業者団体等に対して供給の確保や便乗値上げの防止等の要請を行う<sup>48</sup>。

イ 県は、生活関連物資等の需給・価格動向や実施した措置の内容について、県民への迅速かつ適切な情報共有に努めるとともに、必要に応じ、県民からの相談窓口・情報収集窓口の充実を図る。

ウ 県は、生活関連物資等の価格の高騰又は供給不足が生じ、又は生ずるおそれがあるときは、適切な措置を講ずる。

#### (6) 水の安定供給

水道用水供給事業者及び工業用水道事業者である県は、当該事業を継続するために別に定める計画で定めるところにより、水を安定的かつ適切に供給するために必要な措置を講ずる。

#### (7) 犯罪の予防・取締り

県警は、混乱に乗じて発生が予想される各種犯罪防止をするため、犯罪情報の集約に努め、広報啓発活動を推進するとともに、悪質な事犯に対する取締りを徹底する。

#### (8) 埋葬・火葬の特例等<sup>49</sup>

ア 県は、国の要請に基づき、市町に対し、火葬場の経営者に可能な限り火葬炉を稼働させるよう、要請する。

イ 県は、国の要請に基づき、市町に対し、死亡者が増加し、火葬能力の限界を超えることが明らかになった場合には、一時的に遺体を安置する施設等を直ちに確保するよう要請する。

ウ 県は、遺体の埋葬及び火葬について、墓地、火葬場等関連する情報を広域的かつ速やかに収集するとともに、広域火葬の円滑な実施を進める。

### 5 一般の事業者が行うこと

#### (1) 従業員の健康管理及び感染対策の実施

事業者は、従業員の健康管理を徹底するとともに職場における感染対策を講じる。

#### (2) 食料品、生活関連物資等の価格高騰等の防止

事業者は、食料品、生活関連物資等の価格が高騰しないよう、また、買占め及び売り惜しみが生じないよう対応する。

<sup>48</sup> 特措法第 59 条

<sup>49</sup> 特措法第 56 条

## 第5節 小康期

### 第1 想定状況等

想定状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新型インフルエンザ等患者の発生が減少し、低い水準でとどまっている状態。</li> <li>・ 大流行はいったん終息している状況。 ※今後、流行が再燃（流行の次波が再来）する可能性と、結果的にそのまま流行が終息する可能性がある。</li> <li>・ 国は、緊急事態措置の必要がなくなった場合は、新型インフルエンザ等緊急事態解除宣言（新型インフルエンザ等緊急事態が終了した旨の公示）<sup>50</sup>を行う。</li> </ul>
対策の目標	1) 市民生活・地域経済の回復を図り、流行の第二波に備える。
対策の考え方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 第二波の流行に備えるため、第一波に関する対策の評価を行うとともに、資器材、医薬品の調達等、第一波による医療体制及び社会・経済活動への影響から早急に回復を図る。</li> <li>2) 第一波の終息及び第二波の発生の可能性やそれに備える必要性について市民に情報提供する。</li> <li>3) 情報収集の継続により、第二波の発生の早期探知に努める。</li> <li>4) 第二波の流行による影響を軽減するため、住民接種を進める。</li> </ol>

### 第2 実施体制

- ・ 基本的対処方針に基づき、新型インフルエンザ等対策を実施する。
- ・ 新型インフルエンザ等緊急事態解除宣言がされたときは、遅滞なく市対策本部を廃止する<sup>51</sup>。
- ・ 政府行動計画及び県行動計画を踏まえ、これまでの各段階における対策に関する評価を行い、必要に応じ、行動計画、マニュアル等の見直しを行う。
- ・ 関係各部署において、所管事務に関する「業務継続計画」を、必要に応じて見直しを行う。

### 第3 サーベイランス・情報収集

#### (1) 情報収集

国・海外での新型インフルエンザ等の発生状況、各国の対応について、引き続き厚生労働省・県等を通じて必要な情報を収集する。

#### (2) サーベイランス

学校等におけるインフルエンザ様症状による欠席者の状況（学級・学校閉鎖等）を調査し、インフルエンザの感染拡大を早期に探知するため、県へ報告する。

<sup>50</sup> 特措法第32条第5項条、小康期に限らず、新型インフルエンザ等緊急事態措置を実施する必要がなくなったと認める時は、新型インフルエンザ等緊急事態解除宣言を行う。

<sup>51</sup> 特措法第37条で準用する特措法第25条

## 第4 情報提供・共有

### (1) 情報提供

ア 引き続き市民に対し、利用可能なあらゆる媒体・機関を活用し、第一波の終息と第二波発生の可能性やそれに備える必要性を情報提供する。

- ・緊急事態解除宣言までは、メディア等に対し適宜、市内の発生状況や対応状況等について情報提供を行う。
- ・市ホームページにおいて、緊急事態解除宣言までは、市民や事業者に対し、随時、発生状況や対応状況等の情報提供を行う。

イ これまでの情報提供体制を評価し、第二波に向けた情報提供体制の見直し、整備を行う。

### (2) 情報共有

県や関係機関等とのインターネット等を活用したリアルタイムかつ双方向の情報共有の体制を維持し、第二波に備えた体制の再整備に関する対策の方針を伝達し、現場での状況を把握する。

### (3) 相談窓口等の体制の縮小

国の要請を受け、状況を見ながら、相談窓口等の体制を縮小する。

## 第5 予防・まん延防止

### (1) 住民接種の実施

国及び県と連携し、田方医師会の協力を得て、流行の第二波に備え、予防接種法第6条第3項に基づく新臨時接種を進める。

〔緊急事態宣言がされている場合〕

### (2) 住民接種の実施

国及び県と連携し、田方医師会の協力を得て、必要に応じ、流行の第二波に備え、特措法第46条に基づき、予防接種法第6条第1項に規定する臨時の予防接種を進める。

## 第6 医療等

国、県と連携し、新型インフルエンザ等発生前の通常の体制に戻す。

### 県行動計画抜粋

#### 1 県が行うこと

##### (1) 医療体制

県は、国と連携し、新型インフルエンザ等発生前の通常の医療体制に戻す。

##### (2) 抗インフルエンザウイルス薬

ア 県は、国が定めた適正な抗インフルエンザウイルス薬の使用を含めた治療指針を

医療機関に周知する。

イ 県は、流行の第二波に備え、必要に応じ、抗インフルエンザウイルス薬の備蓄を行う。

〔緊急事態宣言がされている場合〕

(3) 措置の縮小・中止

県は、国内感染期に講じた措置を適宜縮小・中止する。

## 第7 市民生活・地域経済の安定の確保

### 1 市が行うこと

(1) 緊急事態措置の縮小・中止

国、県、指定（地方）公共機関と連携し、国内の状況等を踏まえ、緊急事態措置の合理性が認められなくなった場合は、緊急事態措置を縮小・中止する。

### 2 市民が行うこと

(1) 消費者としての適切な行動

市民は、食料品、生活必需品等の購入に当たって消費者としての適切に行動する。

県行動計画から抜粋

### 2 一般の事業者が行うこと

(1) 食料品、生活関連物資等の価格高騰等の防止

事業者は、食料品、生活関連物資等の価格が高騰しないよう、また、買占め及び売惜しみが生じないよう対応する。

〔緊急事態宣言がされている場合〕

(2) 業務の再開

事業者は、国の周知に基づき、事業継続に不可欠な重要業務への重点化のために縮小・中止していた業務を再開する。